

# StorageTek Host Software Component (MSP 対応版)

---

リファレンスサマリー

バージョン 6.2



パート番号 : E28894-01  
2012 年 2 月  
リビジョン 01

このドキュメントに関するコメントは [STP\\_FEEDBACK\\_US@ORACLE.COM](mailto:STP_FEEDBACK_US@ORACLE.COM) に送信してください。

Host Software Component (HSC) リファレンスサマリー  
E28894-01

Oracle は、このマニュアルを改善するためのコメントや提案を歓迎いたします。 [STP\\_FEEDBACK\\_US@ORACLE.COM](mailto:STP_FEEDBACK_US@ORACLE.COM) にご連絡ください。  
タイトル、パート番号、発行日、およびリビジョンを含めてください。

Copyright © 1987, 2012, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are “commercial computer software” or “commercial technical data” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（*redundancy*）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle は Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIXはX/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

## ドキュメントの有効性

---

EC 番号	日付	ドキュメント キット番号	種別	有効性
132886	2007 年 9 月	---	リビジョン A	このマニュアルは MSP 対応版 Host Software Component、バージョン 6.2 に適用されます。
---	2009 年 2 月	---	リビジョン B	
---	2010 年 8 月	---	リビジョン BA	
---	2012 年 2 月	---	リビジョン 01	



# 目次

---

はじめに .....	ix
Oracle Support へのアクセス .....	ix
<b>構文規則 .....</b>	<b>1</b>
構文フローダイアグラム .....	1
コマンドの指定 .....	1
変数 .....	1
区切り文字 .....	1
フロー線 .....	2
必須選択 .....	2
オプション選択 .....	3
デフォルト .....	3
繰り返し記号 .....	3
構文の継続 (断片) .....	4
ライブラリの識別 .....	5
CACAPid の指定方法 .....	6
CAPid 形式 .....	7
範囲とリスト .....	9
制御文の構文規則 .....	12
<b>LIBGEN マクロの構文 .....</b>	<b>15</b>
SLIACS マクロ .....	15
SLIALIST マクロ .....	15
SLIDLIST マクロ .....	15
SLIDRIVS マクロ .....	16
SLIENDGN マクロ .....	16
SLILIBRY マクロ .....	16
SLILSM マクロ .....	17
SLIRCVRY マクロ .....	17
SLISTATN マクロ .....	18
<b>制御文の構文 .....</b>	<b>19</b>
制御データセット定義 (CDSDEF) 制御文 .....	19
EXECParm 制御文 .....	19
ジャーナル定義 (JRNDEF) 制御文 .....	20
LMUPATH 制御文 .....	20
LMUPDEF コマンドおよび制御文 .....	20

OPTION 制御文 .....	20
再構成定義 (RECDEF) 制御文 .....	21
スクラッチサブプール定義 (SCRPDEF) コマンドおよび制御文 .....	21
スクラッチサブプール (SCRPOol) 制御文 .....	21
ボリューム属性 (VOLATTR) 制御文 .....	22
ボリューム属性定義 (VOLDEF) コマンドおよび制御文 .....	23
<b>ユーティリティの構文 .....</b>	<b>25</b>
ACTIVITIES ユーティリティ .....	25
AUDIt ユーティリティ .....	26
BACKup ユーティリティ .....	26
データベースデコンパイル (LIBGEN) ユーティリティ .....	26
ディレクトリ再構築 (DIRBLD) ユーティリティ .....	26
EJECT ユーティリティ .....	27
INITIALIZE ( カートリッジ初期設定 ) ユーティリティ .....	28
OFFLOAD ユーティリティ .....	28
MERGECDS ユーティリティ .....	29
MOVE ユーティリティ .....	29
再構成ユーティリティ .....	29
再配置ユーティリティ .....	29
RESTore ユーティリティ .....	30
SCRAtch ユーティリティ .....	30
SLUCONDB ユーティリティ .....	30
スクラッチ再分配 (SCREdist) ユーティリティ .....	31
SET ユーティリティ .....	33
UNSCratch ユーティリティ .....	34
UNSElect ユーティリティ .....	34
ボリュームレポート (VOLRpt) ユーティリティ .....	35
<b>HSC オペレータコマンドの構文 .....</b>	<b>37</b>
割り振り (ALLOC) コマンドと制御文 .....	37
CAP 優先 (CAPPref) コマンドおよび制御文 .....	37
CDs Enable/Disable コマンド .....	38
CLean コマンド .....	38
通信パス (COMMPath) コマンドおよび制御文 .....	39
DISMount コマンド .....	39
DISPLAY コマンド .....	40
Display Acs .....	40
Display ALI .....	40
Display ALLOC .....	40
Display Cap .....	40
Display CDS .....	40
Display CMd .....	41
Display COMMPath .....	41
Display DRives .....	41
Display Exceptions .....	43

Display LMUPDEF	43
Display LSM	43
Display Message	43
Display MNTD	44
Display MONitor	44
Display OPTion	44
Display Requests	44
Display SCRatch	44
Display SCRPDEF	46
Display SRVlev	46
Display Status	46
Display THReshld	46
Display TREQDEF	48
Display UNITDEF	48
Display VOLDEF	48
Display Volume	48
DRAin CAP コマンド	48
EJect コマンド	49
ENter コマンド	51
Journal コマンド	51
MODify コマンド	51
MONITOR コマンド	52
Mount コマンド	52
MNTD (Mount/Dismount Options) コマンドと制御文	53
MOVE コマンド	54
OPTion コマンドと制御文	55
RECover Host コマンド	55
RELease CAP コマンド	56
SCRatch コマンド	56
SEnter コマンド	56
SRVlev コマンド	56
監視停止 (STOPMN) コマンド	56
SWitch コマンド	57
TRace コマンド	57
TRACELKP コマンド	57
UNSCRatch コマンド	57
ユーザー出口 (UEXIT) コマンドおよび制御文	58
Vary Station コマンド	58
Vlew コマンド	59
Warn コマンド	59
<b>HSC 診断コマンドの構文</b>	<b>61</b>
Llst コマンド	61
TRace コマンド	62





# はじめに

---

このサマリーには、Host Software Component (MSP 対応版) の Release 6.2.0 に関連した、よく使用される構文情報が含まれています。

ここで提供される資料は記憶の助けとして使用してください。プログラマーレベルで Host Software Component を操作する、経験のあるユーザーを対象としています。このことを念頭に置いて、説明文は最小限にしています。

このリファレンスサマリーには次の情報が記載されています。

- 構文規則
- LIBGEN マクロの構文
- 制御文の構文
- ユーティリティーの構文
- オペレータコマンドの構文
- 診断コマンドの構文

## Oracle Support へのアクセス

Oracle サポートサービスでは、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細については、<http://www.oracle.com/support/contact.html> にアクセスするか、または聴覚障害をお持ちの場合は <http://www.oracle.com/accessibility/support.html> にアクセスしてください。



# 構文規則

---

## 構文フローダイアグラム

構文は、構文フロー図を使って示します。この図には、次の要素が含まれます。

- 構文 - 図自体。
- 項目 - 図内の各要素。項目には、キーワード、変数、区切り記号、演算子、構文の部分参照、分離記号があります。
- グループ - 項目またはそのほかのグループの集合。

次の項では、構文フロー図の特徴について説明し、一般的な例も示します。

## コマンドの指定

コマンドは、コマンド名、キーワードパラメータ、および定位置パラメーターから構成されます。コマンド名は、コマンド実行を開始します。キーワードパラメータは、キーワードとその関連値を含むオペランドであり、定位置パラメータは、キーワードでなくコマンド文字列内の位置で識別されるオペランドです。

- キーワードパラメータは順不同に指定できる。HSC では、1 つのキーワードを繰り返し指定できる ( このような指定方法が許容されている )。この場合、キーワードには、コマンド内で最後に指定されたものに関連する値が割り当てられる。
- 定位置パラメータは、構文図にあるとおりの順序で入力しなければならない。
- 大文字は、コマンド名、キーワード、または定位置パラメータの最小省略形を示します。

## 変数

変数はイタリックで示されます。

## 区切り文字

カンマ (,)、セミコロン (;)、またはそのほかの区切り文字が構文フロー図の要素とともに示された場合、それは文またはコマンドの一部として入力する必要があります。

## フロー線

構文フロー図は、横線と縦線、およびコマンド、制御文、マクロ、またはユーティリティーのテキストからなります。

▶—COMMAND/MACRO/UTILITY—▶

または

▶—

Item1
Item2
Item3

—▶

ダイアグラムは、左から右、上から下へ読みます。矢印は流れとその方向を示します。

- 文は ▶▶ で開始します。
- 文は ▶◀ で終了します。
- 次行へ続くダイアグラムは ▶ で開始します。
- フラグメントは | で開始／終了します。

▶—COMMAND/UTILITY NAME—Item1(*variable1*)—Item2(

<i>variable2</i>
<i>variable3</i>
<i>variable4</i>

)—▶

▶—Item3(*variable5*)—▶

## 必須選択

反復矢印のない分岐線は、**1つ**を選択する必要があることを示します。項目の1つが構文フロー図の基本線上にある場合は、必須選択となります。

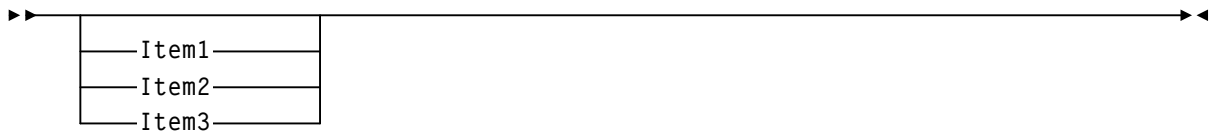
▶—

Item1
Item2
Item3

—▶

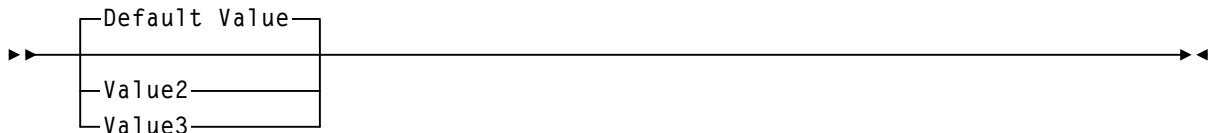
## オプション選択

最初の項目が基本線の下にある場合は任意選択となります。



## デフォルト

デフォルト値とパラメータは、構文フロー図の線の上に示されます。次の例ではコマンドで値が指定されない場合、デフォルト値が HSC によって使用されます。

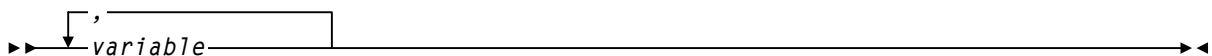


一部のキーワードパラメータには、スタックからの値を選択できます。スタックにデフォルト値がある場合、キーワードおよび選択値は基本線の下に位置し、それが任意選択であることが示されます。そしてデフォルト値はキーワード行の上に現れます。次の例ではコマンドにキーワードが指定されない場合、キーワード(省略時値)が HSC によって使用されます。



## 繰り返し記号

繰り返し記号は、複数の選択が可能であること、または1つの選択を2回以上実行できることを示しています。この例の反復記号の場合、反復分離記号としてカンマが必要です。



## 構文の継続 (断片)

断片参照によって、構文の一部 (断片) を元の構文フロー図より詳しく参照できます。

▶▶—COMMAND/UTILITY NAME———| Fragment Reference |—————▶◀

断片:

└Item1(—variable1—, —variable3—)  
          └variable2—          └variable4—)—————▶

▶Item2(—variable5—, —variable7—)  
          └variable6—          └variable8—)—————|

## ライブラリの識別

各 ACS、LSM、CAP には、LIBGEN 実行時に固有の識別番号が割り当てられます。HSC コマンドおよびユーティリティーで特定の ACSid、LSMId、または CAPid を識別する際は、この番号を使用してください。

- ACSid (*acs-id*) は、00 から FF までの 16 進値で、LMU を識別します。

*acs-id* は LIBGEN 実行時に SLIALIST マクロを定義した結果です。SLIALIST マクロについては、『HSC 構成ガイド』の「LIBGEN マクロ」を参照してください。このマクロに記載された最初の ACS は 00 という 16 進識別子を獲得し、記載された 2 番目の ACS は 01 の 16 進識別子を獲得し、以後すべての ACS が識別されるまで続行されます。

- LSM 番号 (*l*) は 00 から 17 までの 16 進値です。これは、1 つの LSM を同じ LMU に接続されているほかのすべての LSM と区別します。

LSM 番号は SLIACS マクロの LSM、LSM2、LSM3 および LSM4 パラメータを定義した結果出されたものです。SLIACS マクロについては、『HSC 構成ガイド』を参照してください。ACS 用に記載された最初の LSM は 00 の 16 進値を獲得し、ACS 用に記載された 2 番目の LSM は 01 を獲得し、以降すべての ACS が識別されるまで続行されます。

- LSMid (*lsm-id*) は、ACSid と LSM 番号をコロン (:) で区切ったもので構成されます。これは、1 つの LSM をライブラリにあるほかのすべての LSM と区別します。
- CAP 番号は、SL3000 ライブラリを除くすべての既存のライブラリについての、00 から 02 までの 16 進値です。SL3000 の CAP 番号は、00 から 0B までの 16 進値です。CAP 番号によって、複数の CAP がある LSM で特定の CAP が識別されます。
- CAPid (*cap-id*) は、LSMid と CAP 番号をコロンで区切ったもので構成される 16 進値です。詳細については、6 ページの「CACAPid の指定方法」を参照してください。

一部の HSC コマンドおよびユーティリティーは必須または任意でユーザーがホスト識別子または VOLSER を指定できるようにします。

- 指定されたホストの *host-id* は、LIBGEN の SLILIBRY マクロの HOSTID パラメータに指定された識別子です。HOSTID パラメータは、JES2 および JES3 いずれの場合も SMF システム識別子です。HOSTID に使用できる文字は、A - Z、0 - 9、#、\$、および @ です。
- VOLSER (*volser*) は 1 - 6 文字で構成されるボリュームシリアル番号を識別します。有効な文字は、A - Z、0 - 9、# (シャープ記号)、\$、¥ (円記号)、および省略可能な末尾の空白です。先行ブランクは使用できません。

## CACAPid の指定方法

CAPid はライブラリ内の特定の CAP を指定します。各 CAP は、CAP が接続している LSM の LSMid と、その LSM 内で CAP の区別に使用される CAP 番号で識別されます。

CAP 構成は、LSM タイプによって異なります。次の構成が可能です。

### **LSM (モデル 4410) および PowderHorn LSM (モデル 9310)**

標準の 21 セルの CAP または拡張 CAP のいずれかで構成できます。拡張 CAP は、40 セルマガジンスไตล์ CAP が 2 つと、1 セル優先 CAP (PCAP) を含みます。40 セルの CAP は独立して機能します。

### **WolfCreek LSM (モデル 9360-050、9360-075、および 9360-100)**

20 セルのマガジンスไตล์ CAP および PCAP を含む WolfCreek CAP で構成します。WolfCreek オプション CAP と呼ばれる 30 セルのマガジンスไตล์ CAP を WolfCreek CAP に追加できます。

### **TimberWolf LSM (モデル 9740)**

14 セルの永続ラックまたは 10 セルの取り外し可能マガジンのいずれかで構成します。

### **StreamLine ライブラリ (モデル SL3000)**

このライブラリは、各 CAP で 13 セルの取り外し可能マガジン 2 個で構成します。このライブラリは、最大 12 の CAP (00 - 0B) を含むことができます。

### **StreamLine ライブラリ (モデル 8500)**

このライブラリは、3 セルおよび 13 セルの取り外し可能マガジンと構成できます。オプションで 39 セル CAP を追加できます。



## CAPid 形式

CAPid の指定に使用できる形式は 2 つあります。

- *AA:LL*。AA は ACSid、LL は LSM 番号です。この形式は、*lsm-id* と呼ばれます。
- *AA:LL:CC*。AA:LL は LSMid、:CC は CAP 番号です。この形式は、*cap-id* と呼ばれます。



注意：システムでは、新しい CAPid 形式におけるコロンはコマンドの終わりとして処理されるため、コロンを MSP コマンドの区切り文字として使用しないでください。HSC コマンドでは、コロンに続く情報は一切処理されません。

使用する形式は、CAP ハードウェアと指定されているコマンドによって決まります。

- *AA:LL* 形式は、次の場合に指定できます。
  - 標準 CAP を指定する
  - HSC が CAP 優先に基づいて CAP を選択できるようにする
- *AA:LL:CC* 形式は、CAPid を受け入れるすべてのコマンドで、すべての CAP ハードウェアに指定できます。これが優先形式です。有効な CAP 番号は次のとおりです。

00 次のいずれかを示します。

- 21 セルの 4410 または 9310 標準 CAP
- 右側の 40 セルの 4410 または 9310 拡張 CAP
- 20 セルの 9360 WolfCreek CAP
- 14 セル または 10 セルの取り外し可能マガジン 9740 TimberWolf CAP
- 13 セルの取り外し可能マガジン 18 個で構成される、左側の SL3000 AEM CAP
- 左側の 39 セルの SL8500 ライブラリ CAP



注：SL8500 CAP の LSM の部分は、構造のトラック 1 にある LSM の LSM 番号でなければなりません。

01 次のいずれかを示します。

- 左側の 40 セルの 4410 または 9310 拡張 CAP
- 30 セルの 9360 WolfCreek オプション CAP
- 13 セルの取り外し可能マガジン 2 個で構成されるオプション SL3000 CEM CAP
- 右側の 39 セルの オプション SL8500 ライブラリ CAP

**02** 次のいずれかを示します。

- 4410 または 9310 拡張 CAP または 9360 WolfCreek CAP の PCAP。
- 13 セルの取り外し可能マガジン 2 個で構成されるオプション SL3000 CEM CAP。

**03、04、05** は、次を示します。

- 13 セルの取り外し可能マガジン 2 個で構成される、オプションの SL3000 CEM/DEM CAP。

**06** は、次を示します。

- 13 セルの取り外し可能マガジン 2 個で構成される唯一の必須 SL3000 BDM CAP。

**07、08、09、0A** は、次を示します。

- それぞれ 13 セルの取り外し可能マガジン 2 個で構成されるオプション SL3000 CEM CAP。

**0B** は、次を示します。

- 13 セルの取り外し可能マガジン 18 個で構成される、右側の SL3000 AEM CAP



注：

- SL3000 ライブラリ CAP が存在しない場合、HSC はこれらを「インストールされていない」とレポートします。これにより、CAP アドレスは変更されず、新しい CAP が追加されます。
- CAPid の指定についての追加情報は、個々のコマンドの説明を参照してください。
- SL3000 ライブラリと SL8500 ライブラリには PCAP は含まれません。

## 範囲とリスト

HSC コマンドとユーティリティーでは、通常、要素の範囲とリストを指定することができます。

1. 範囲を表す場合は、同じ長さでデータタイプを有する 2 つの要素 (両要素も範囲内に含まれる) をダッシュで結んで表します。最初の要素は、絶対に 2 番目の要素より小さくなければ **なりません**。
  - 16 進数の範囲は、2 つの 16 進数で表します (例: 0A2-0AD または 000-0FC)。
  - 10 進法の範囲は、10 進の数字の組み合わせで構成されます (たとえば、1-9、または 010-094)。先行 0 は不要です。
  - 数値による VOLSER 範囲 (*vol-range*) は、1 - 6 桁の 10 進数を伴う 2 つの VOLSER 要素で構成されます (例: ABC012-ABC025、または X123CB-X277CB)。10 進数の部分を増分域と呼びます。次の制限が適用されます。
    - 増分部分の文字位置は 2 つの範囲要素で一致していなければなりません。
    - 増分されない部分の文字は、両要素で一致していなければなりません。
    - 範囲要素の複数箇所を増分することはできません。最初の要素が 111AAA の場合、2 番目の要素で 112AAB と指定することはできません。
    - VOLSER 範囲で 10 進数が 2 箇所以上使用されている場合は、あらゆる箇所が増分域として有効です。次に例を示します。

**A00B00**      指定可能な最大範囲は A00B00 - A99B99

**A0B0CC**      指定可能な最大範囲は A0B0CC - A9B9C

**000XXX**      指定可能な最大範囲は 000XXX - 999XXX



注: VOLSER ほとんどのオペレータコマンドの VOLSER 範囲は、100 項目に限られます。これよりも大きな範囲が入力されても、その範囲内の最初の 100 個の VOLSER にしかコマンドは作用しません。HSC ユーティリティーを使用すれば、100 項目を超える範囲を処理できます。

- アルファベットによる VOLSER 範囲 (*vol-range*) は、増分する 1 - 6 文字のアルファベットを伴う 2 つの VOLSER 要素で構成されます (例: AAA-000ZZZ または 9AAA55-9ZZZ55)。この部分を増分域と呼びます。次の制限が適用されます。
  - 増分部分の文字位置は 2 つの範囲要素で一致していなければなりません。
  - 増分されない部分の文字は、両要素で一致していなければなりません。
  - 範囲要素の複数箇所を増分することはできません。最初の要素が 111AAA の場合、2 番目の要素で 112AAB と指定することはできません。
  - VOLSER 範囲のアルファベット部分は、A - Z と定義されています。複数文字のシーケンスを増分する場合、個々の文字が Z まで増分します。たとえば、ACZ は AAA-AMM 範囲内にあります。次の例を参照してください。

**A00A0-A99A0**

VOLSER は A00A0 - A09A0 まで増分し、そのあと、A10A0 - A99A0 まで増分します。

**9AA9A-9ZZ9A**

VOLSER は 9AA9A - 9AZ9A まで増分し、そのあと 9BA9A - 9ZZ9A まで増分します。

**111AAA-111ZZZ**

VOLSER 111AAA から 111AAZ まで増え、次に 111ABA から 111ZZZ まで増えます。

**999AM8-999CM8**

VOLSER は 999AM8 - 999AZ8 まで増分し、そのあと 999BA8 - 999CM8 まで増分します。

**A3BZZ9-A3CDE9**

VOLSER は A3BZZ9 - A3CAA9 まで増分し、そのあと A3CAB9 - A3CDE9 まで増分します。

**AAAAAA-AAACCC**

VOLSER は AAAAAA - AAAAAZ まで増分し、そのあと AAAABA - AAACCC まで増分します。

**CCCNNN-DDDNNN**

VOLSER は CCCNNN - CCCNNZ まで増分し、そのあと CCCNOA - DDDNNN まで増分します。\*

\* 注意: これは非常に広い範囲になります。

アルファベットによる VOLSER 範囲のボリューム数は、VOLSER 範囲で使用する増分部分の要素数によって決定されます。各文字位置での A-Z 範囲のボリューム数は、増分対象のポジション数の 26 乗になります。

<b>A-Z</b>	$26^1$	26
<b>AA-ZZ</b>	$26^2$	676
<b>AAA-ZZZ</b>	$26^3$	17,576
<b>AAAA-ZZZZ</b>	$26^4$	456,976
<b>AAAAA-ZZZZZ</b>	$26^5$	11,881,376
<b>AAAAAA-ZZZZZZ</b>	$26^6$	308,915,776



注：ほとんどのオペレータコマンドの場合、VOLSER 範囲は 100 項目に限られます。大きい範囲を入力しても、最初の 100 の VOLSER しか作用しません。HSC ユーティリティーを使用すれば、100 項目を超える範囲を処理できます。

2. リストは、1 つまたは複数の要素で構成されます。複数の要素からなる場合は、カンマまたはブランクで区切り、リスト全体をカッコで囲む必要があります。
  - HSC オペレータコマンドでは、要素は単一の要素または範囲のどちらでもかまいません。有効なリスト項目の説明については個々のコマンドを参照してください。
  - 通常、HSC ユーティリティーでは、リストに範囲を指定することはできません。VOLSER のリスト (*vol-list*) は例外で、範囲を指定できます。

VOLATTR 制御文の場合は、VOLSER のリストを識別するのに、ワイルドカード文字 (%、?、または \*) を使用できます。

## 制御文の構文規則

各ユーティリティープログラムの制御文は、コマンド (ユーティリティー機能を示す) と、それに続くパラメータ (ある場合) からなる 80 文字のカードイメージレコードで構成されます。通常、制御文には、次の構文表記法が使用されます。

- 有効な制御文情報域は、列 1 - 列 72 のみです。列 73 - 列 80 は無視されます。
- パラメータは、1 つ以上のブランクまたはカンマによって区切られます。
- 値は、等号 (=) によって、または値をカッコでくくり、それをパラメータに連結することにより、パラメータと関連付けられます。
- 実際の制御文では、大文字 / 小文字は区別されません。
- 制御文には、列 1 の中でアスタリスク (\*) で示される注釈が付いていることがあります。

定義データセット (VOLATTR、UNITATTR、および TAPEREQ) の場合、コメントは新しい形式 (/...\*/) にする**必要があります**。アスタリスク (\*) の注釈は使用できません。定義データセットの場合、最初の行には /...\*/ という注釈は**必要ありません**。

- 文が続かない場合、制御文は終了します。注釈をネストすることはできません。また、2 つの注釈スタイル (\* および /\*) を混合することはできません。
- 80 文字のカードイメージレコードは、従来の連結規則を使用します。
  - パラメータまたはパラメータ値のあとのスペースとダッシュ (-) は、その行の最後の非空白文字と、その次の非空白レコードの最初の非空白文字との間に空白を挿入しなければならないことを示します。
  - 正符号 (+) は、続きの制御情報を、正符号の前の文字の直後に連結することを示します。続きのデータは、次の非ブランクレコードの列 2 から始まります。



**注：**継続は、新しいキーワードまたは値が自然終了した後にのみ使用できます。いくつかの例を以下に示します。

次の例は、継続が正しく使用されています。

```
SCRPOOL NAME=STD36,RANGE+  
(AAA000-AAA999,ZZZ000-ZZZ999)
```

```
SCRPOOL NAME=STD36,RANGE(AAA000-AAA999,-  
ZZZ000-ZZZ999)
```

次に、誤って使用されている連結の例を示します。

```
SCRPOOL NAME=STD36,RANGE(AAA000-AAA999,ZZZ+  
000-ZZZ999)
```

- 制御文の最大長は、32,767 文字です。
- コマンドの最大長 ( コマンドとして使用されるか、または PARMLIB において使用される ) は、126 文字です。





## LIBGEN マクロの構文

---

この項には、LIBGEN マクロの構文がアルファベット順に記載されています。マクロおよびマクロを指定するための必要な順序についての詳細は、『HSC 構成ガイド(MSP 対応版)』を参照してください。

### SLIACS マクロ

```
▶▶ acs0——SLIACS——| Additional Parameters |————▶▶  
  
追加パラメータ:  
|——ACSDRV=(esoteric0, ..., esoteric15)————▶  
|——, LSM=(lsm0, lsm1, ..., lsm23)————▶  
|——, STATION=(station0, ..., station15)——|  
|——, FUTRLSM=(8500, lsmnum)——|
```

### SLIALIST マクロ

```
▶▶ acslist——SLIALIST——acs0, acs1, ..., acs255————▶▶
```

### SLIDLIST マクロ

```
▶▶ drive1st0——SLIDLIST——HOSTDRV=(drives0, ..., drives15)————▶▶
```

## SLIDRIVS マクロ

▶▶ *drives0* SLIDRIVS ADDRESS=(*addr0,addr1...*)▶▶

## SLIENDGN マクロ

▶▶ SLIENDGN▶▶

## SLILIBRY マクロ

▶▶ SLILIBRY▶▶ HOSTID=(*host-id0,host-id1,...,host-id15*)▶▶,ACSLIST=*acslist*▶▶

Optional Parameters▶▶

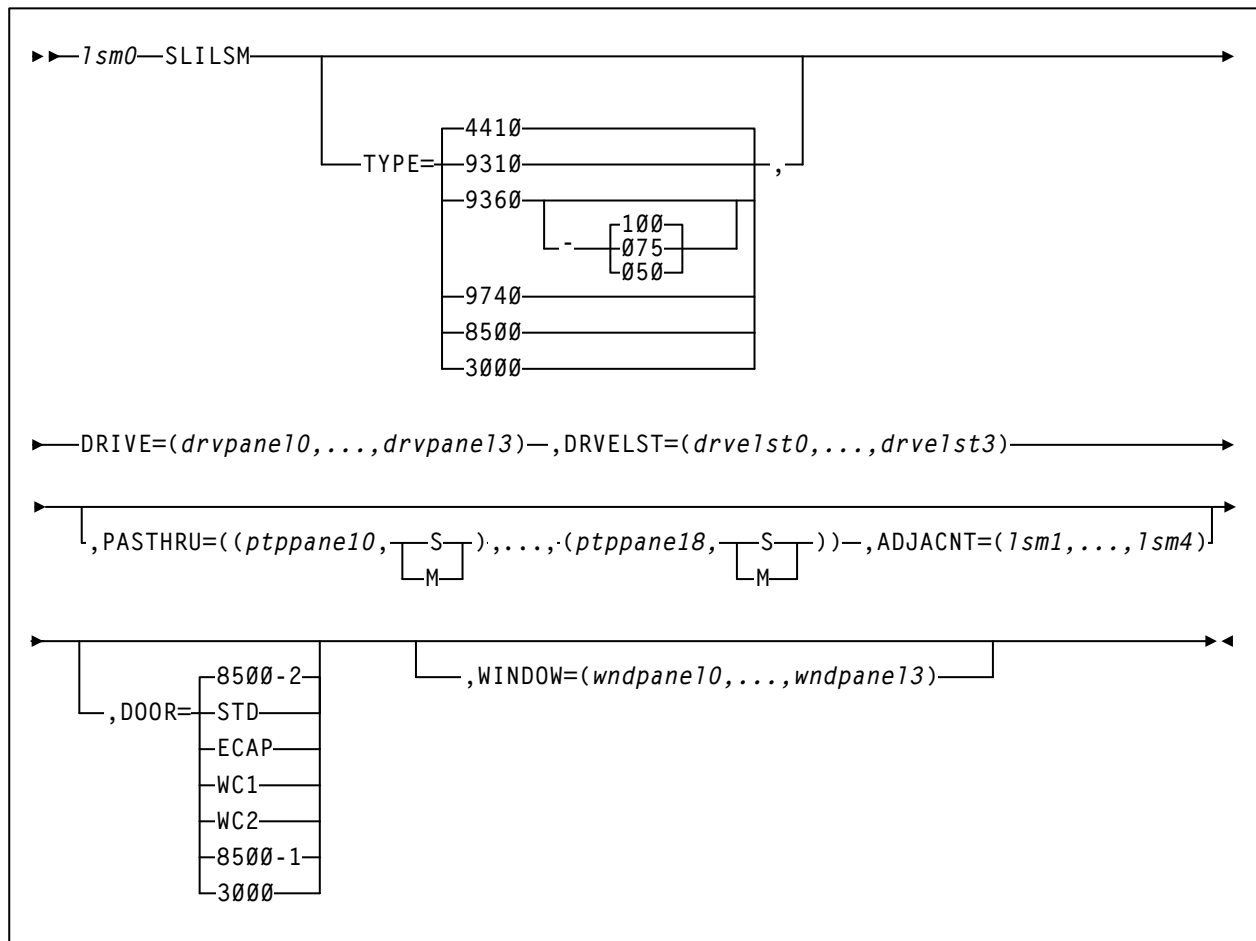
オプションパラメータ:

▶▶,CLNPRFX=*CLN*  
*prefix*▶▶,SMF=*255*  
*libtype*▶▶

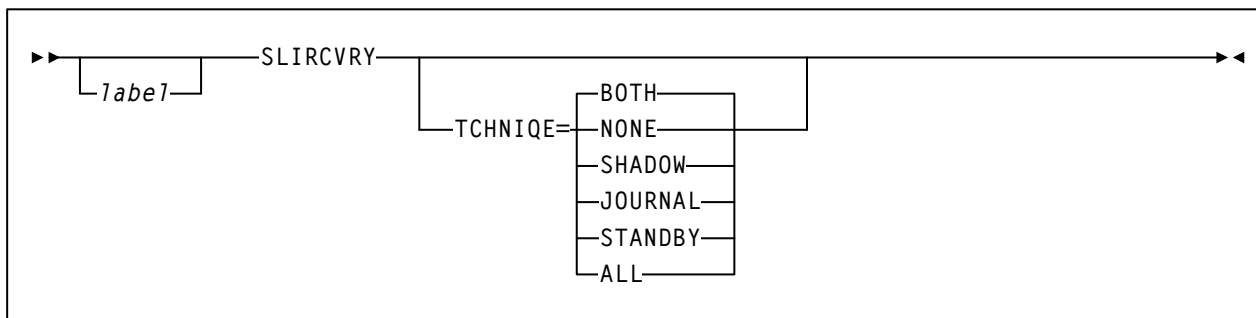
▶▶,MAJNAME=*STKALSQN*  
*qname*▶▶,COMPRFX=*.*  
*commandchar*▶▶,SCRLABL=*SL*  
*AL*  
*NL*  
*NSL*▶▶

▶▶,EJCTPAS=*password*▶▶,DRVHOST=(*host-id*)▶▶,FUTRACS=(*x,y*)▶▶

## SLILSM マクロ



## SLIRCVRY マクロ



## SLISTATN マクロ

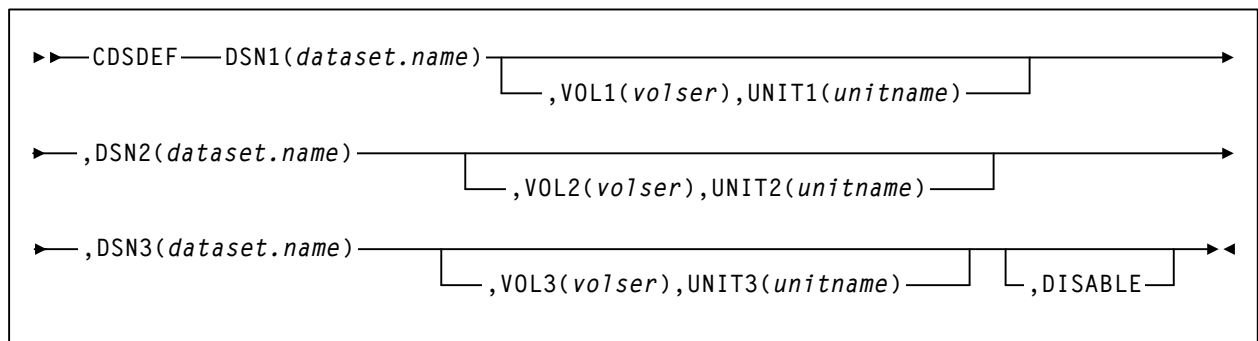
▶▶ *station0* — SLISTATN ADDRESS=(*addr0*, ..., *addr15*) —————▶◀

## 制御文の構文

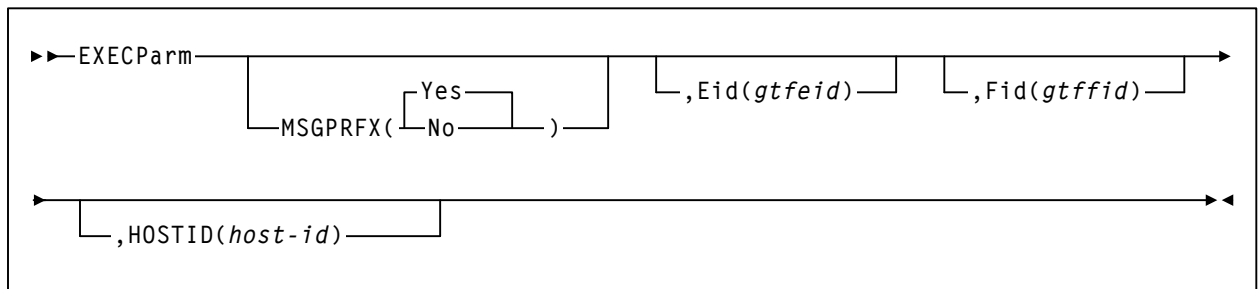
---

この項には、制御文の構文が記載されています。制御文についての詳細は、『HSC システムプログラマーズガイド(MSP 対応版)』を参照してください。

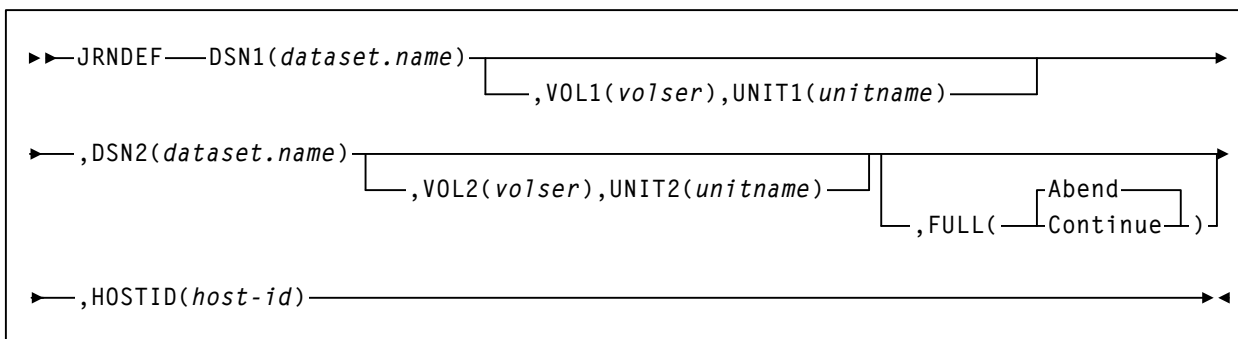
### 制御データセット定義 (CDSDEF) 制御文



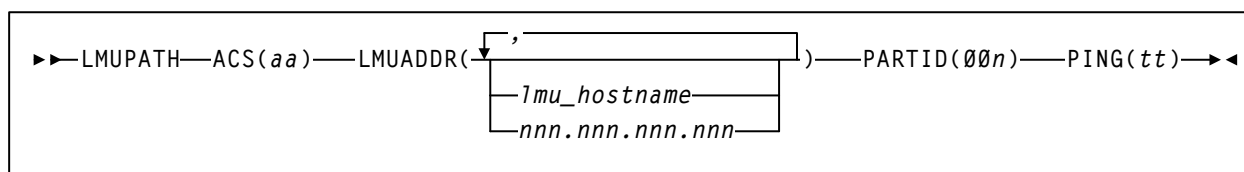
### EXECParm 制御文



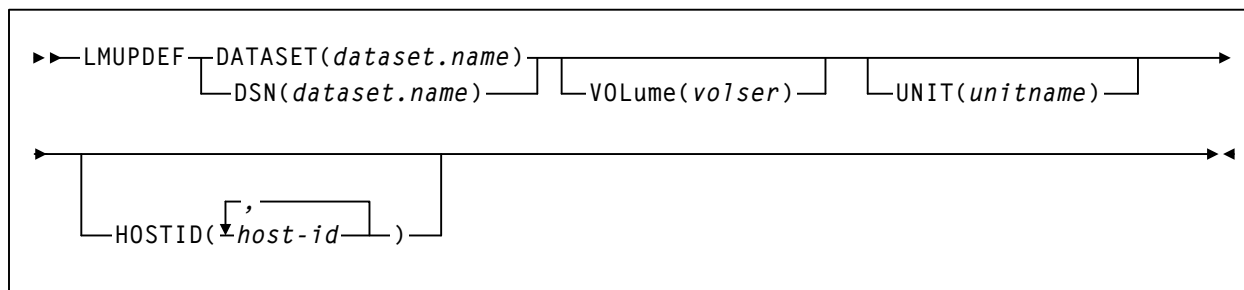
## ジャーナル定義 (JRNDEF) 制御文



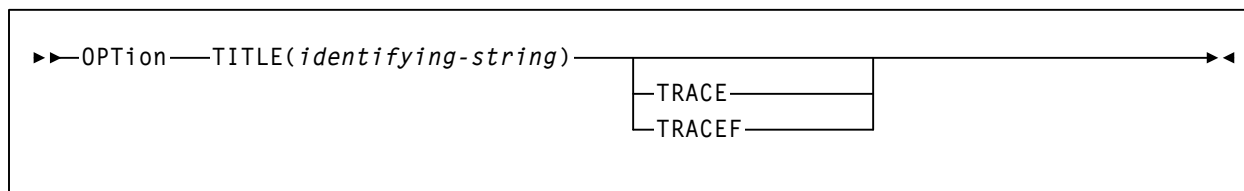
## LMUPATH 制御文



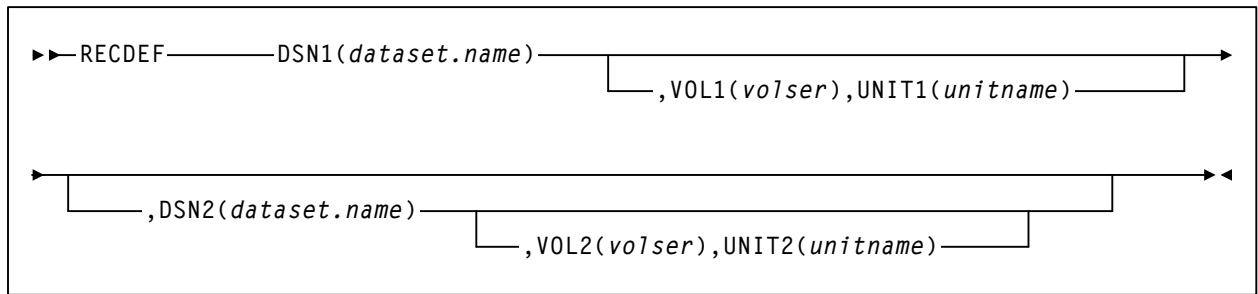
## LMUPDEF コマンドおよび制御文



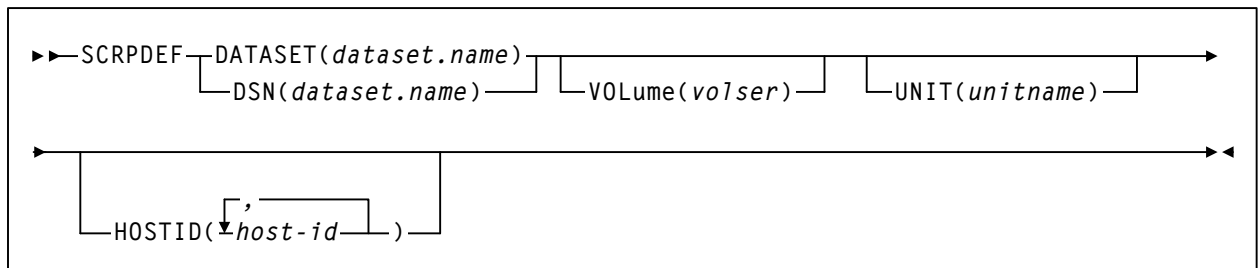
## OPTION 制御文



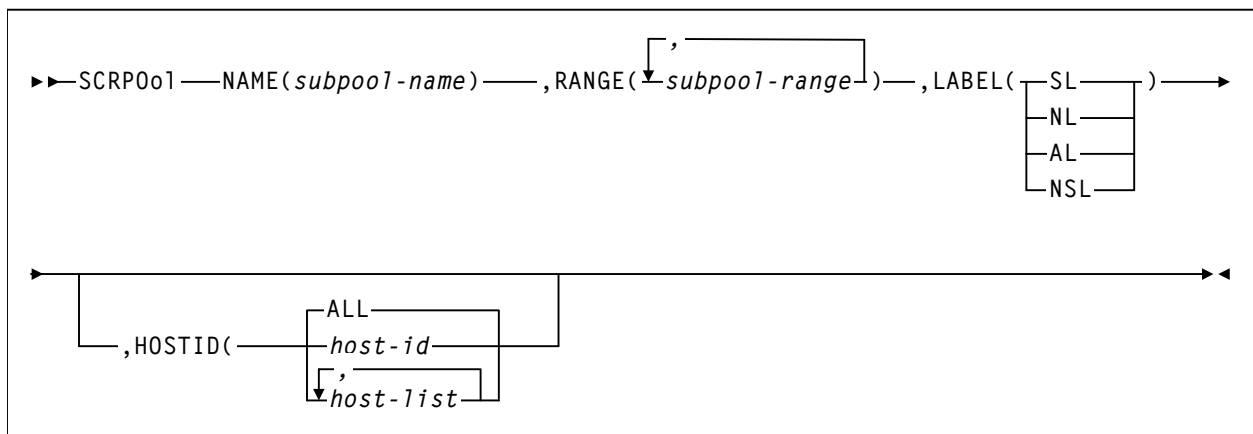
## 再構成定義 (RECDEF) 制御文



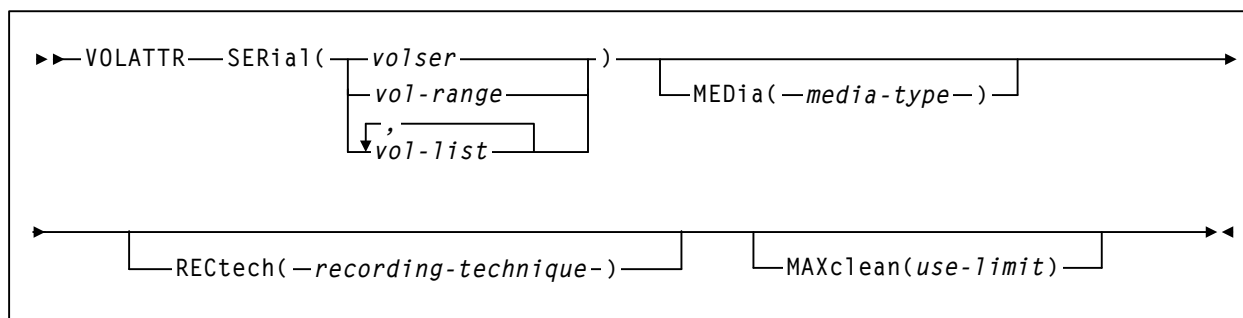
## スクラッチサブプール定義 (SCRPDDEF) コマンドおよび制御文



## スクラッチサブプール (SCRPOOL) 制御文



## ボリューム属性 (VOLATTR) 制御文



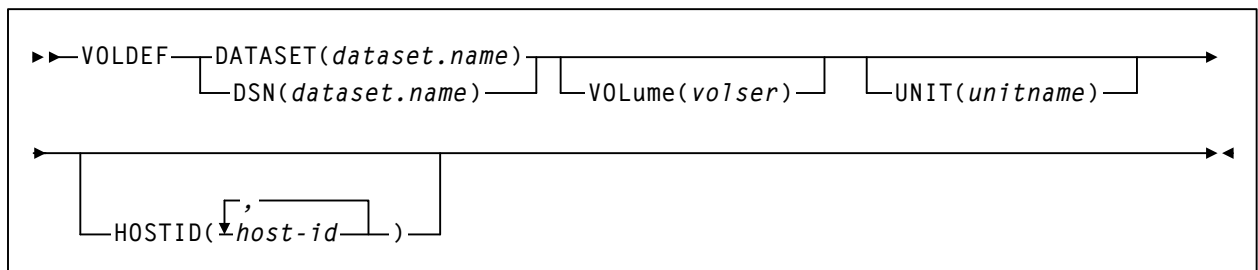
メディアタイプ	記録方式
LONGItud、標準	LONGItud、18track、36track、 36Atrack、36Btrack、36Ctrack
ECART	
ZCART	
DD3A、DD3B、DD3C、DD3D	HELical、DD3
STK1R、STK1U、STK1Y	STK1R、STK1R34、STK1R35、 STK1RA、STK1RA34、STK1RA35、 STK1RB、STK1RB34、STK1RB35、 STK1RAB、STK1RAB4、STK1RAB5、 STK1RC、STK1RC34、STK1RC35、 STK1RD、STK1RDE、STK1RDN、 STK1RD34、STK1RD35、STK1RDE4、 STK1RDE5
STK2P、STK2W	STK2P、STK2P34、STK2P35、 STK2PA、STK2PA34、STK2PA35、 STK2PB、STK2PB34、STK2PB35
LTO-10G、LTO-35G、LTO-50G、 LTO-100G、LTO-200G、LTO-400G、 LTO-400W、LTO-800G、LTO-800W、 LTO-1.5T、LTO-1.5W	*
SDLT、SDLT-2、SDLT-S1、SDLT-S2、 SDLT-S3、SDLT-S4、SDLT-4	*



メディアタイプ	記録方式
T10000T1、T10000TS、T10000T2、 T10000TT、T10000CT、T10000CL	T10K、T10KN、T10KE、T10KA、 T10KAN、T1A34、T1A35、T10KAE、 T1AE34、T1AE35、T10KB、T10KBN、 T1B34、T1B35、T10KBE、T1BE34、 T1BE35、T10KC、T10KCE、 T10KCN、T1C34、T1C35、T1CE34、 T1CE35

\* 対応する記録方式がありません。

## ボリューム属性定義 (VOLDEF) コマンドおよび制御文



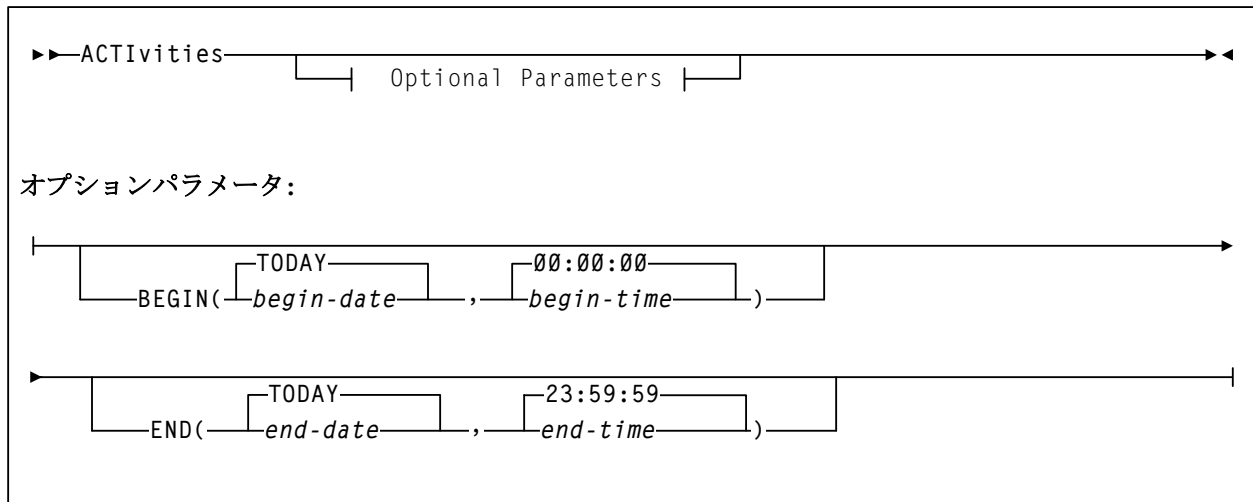


## ユーティリティーの構文

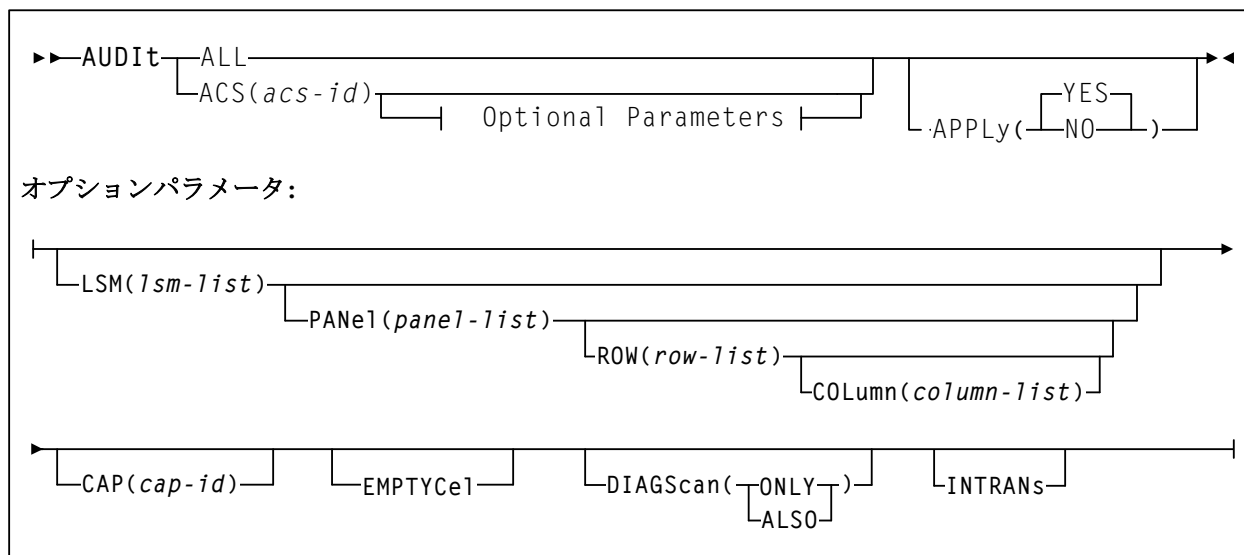
---

この項には、ライブラリユーティリティーの構文が記載されています。ユーティリティーについての詳細は、『*HSC システムプログラマーズガイド (MSP 対応版)*』を参照してください。

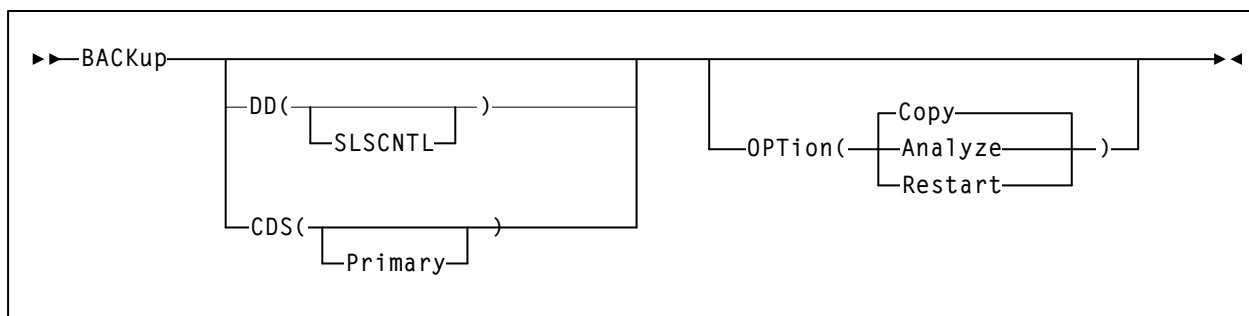
### ACTIVITIES ユーティリティー



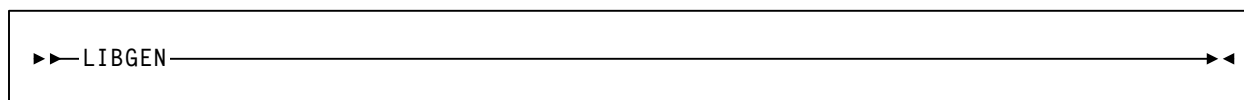
## AUDIt ユーティリティー



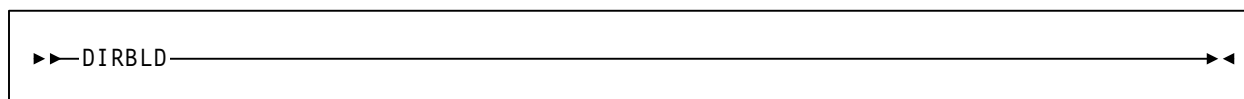
## BACKup ユーティリティー



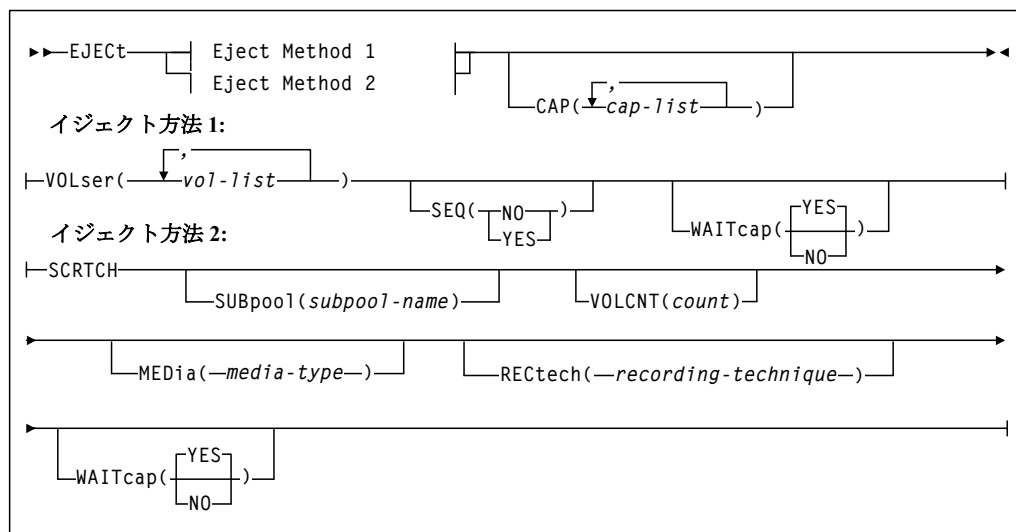
## データベースデコンパイル (LIBGEN) ユーティリティー



## ディレクトリ再構築 (DIRBLD) ユーティリティー



## EJECT ユーティリティー

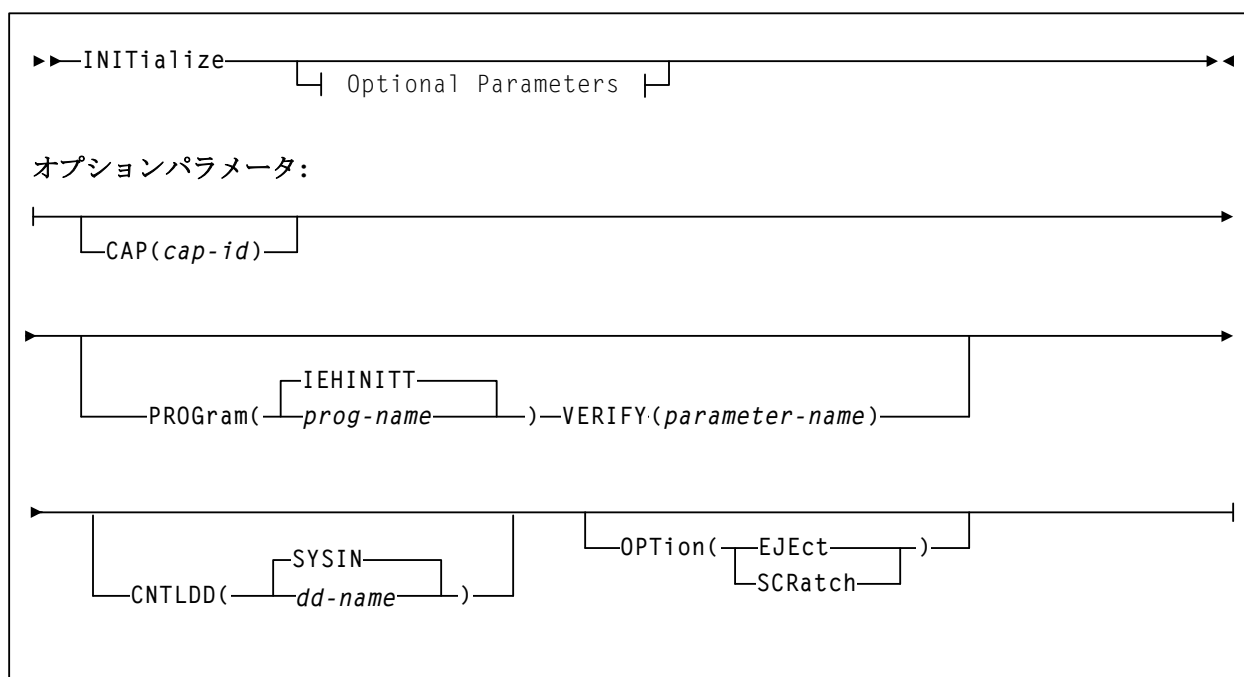


メディアタイプ	記録方式
Standard	18track、36track、36Atrack、36Btrack、36Ctrack
ECART	
ZCART	
DD3、DD3A、DD3B、DD3C	HELical、DD3
STK1、STK1R	STK1R、STK1R34、STK1R35、STK1RA、STK1RA34、STK1RA35、STK1RB、STK1RB34、STK1RB35、STK1RAB、STK1RAB4、STK1RAB5、STK1RC、STK1RC34、STK1RC35、STK1RD、STK1RDE、STK1RDN、STK1RD34、STK1RD35、STK1RDE4、STK1RDE5
STK2、STK2P	STK2P、STK2P34、STK2P35、STK2PA、STK2PA34、STK2PA35、STK2PB、STK2PB34、STK2PB35
LTO-10G、LTO-35G、LTO-50G、LTO-100G、LTO-200G、LTO-400G、LTO-400W、LTO-800G、LTO-800W、LTO-1.5T、LTO-1.5W	*
SDLT、SDLT-2、SDLT-S1、SDLT-S2、SDLT-S3、SDLT-S4、SDLT-4	*

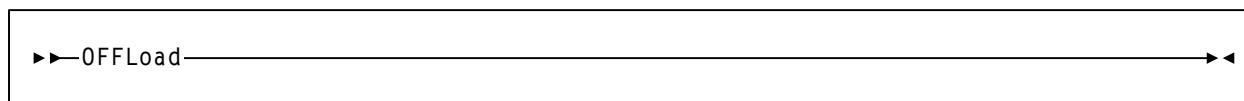
メディアタイプ	記録方式
T10000T1、T10000TS、T10000T2、 T10000TT	T10K、T10KN、T10KE、T10KA、 T10KAN、T1A34、T1A35、T10KAE、 T1AE34、T1AE35、T10KB、T10KBN、 T1B34、T1B35、T10KBE、T1BE34、 T1BE35、T10KC、T10KCE、 T10KCN、T1C34、T1C35、T1CE34、 T1CE35

\* 対応する記録方式がありません。

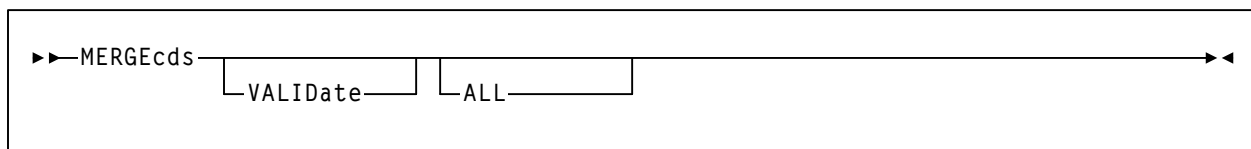
## INITIALIZE ( カートリッジ初期設定 ) ユーティリティ



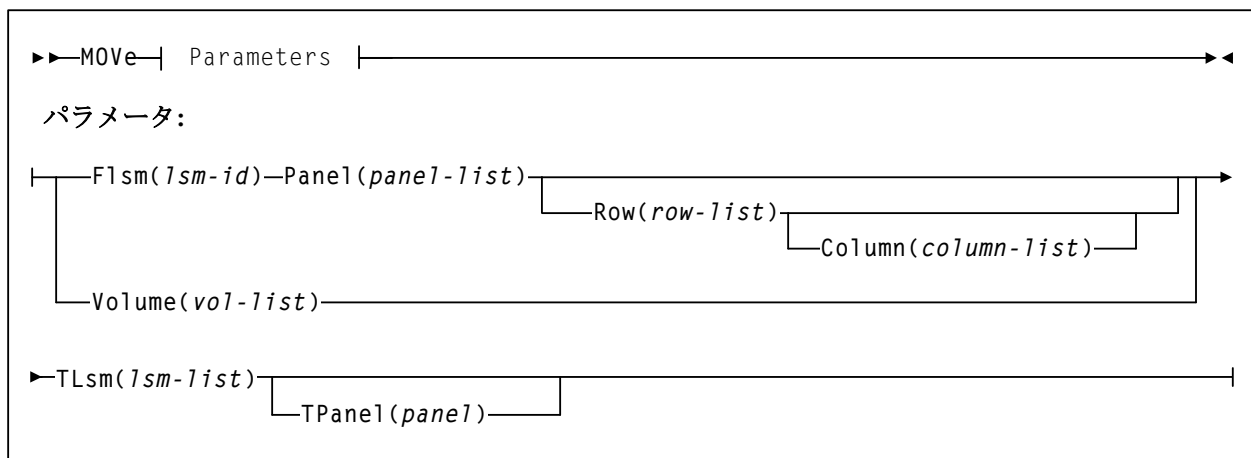
## OFFLOAD ユーティリティ



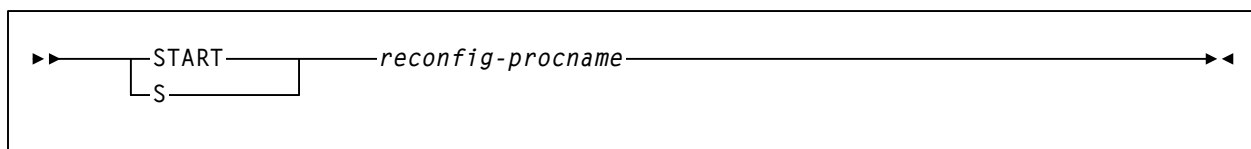
## MERGECDs ユーティリティー



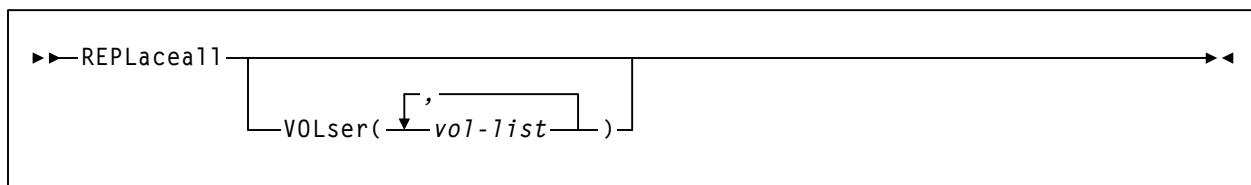
## MOVE ユーティリティー



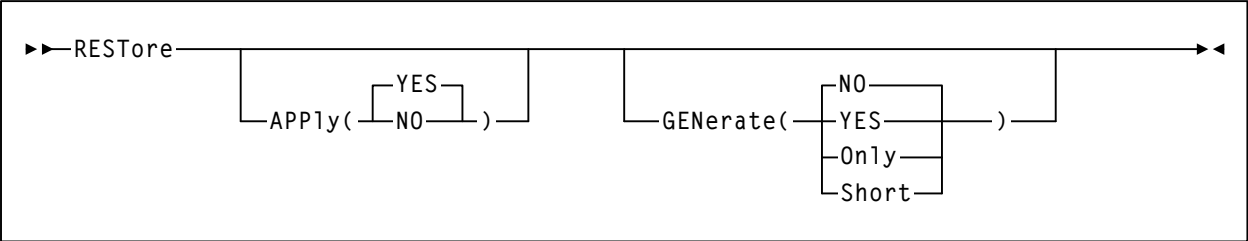
## 再構成ユーティリティー



## 再配置ユーティリティー



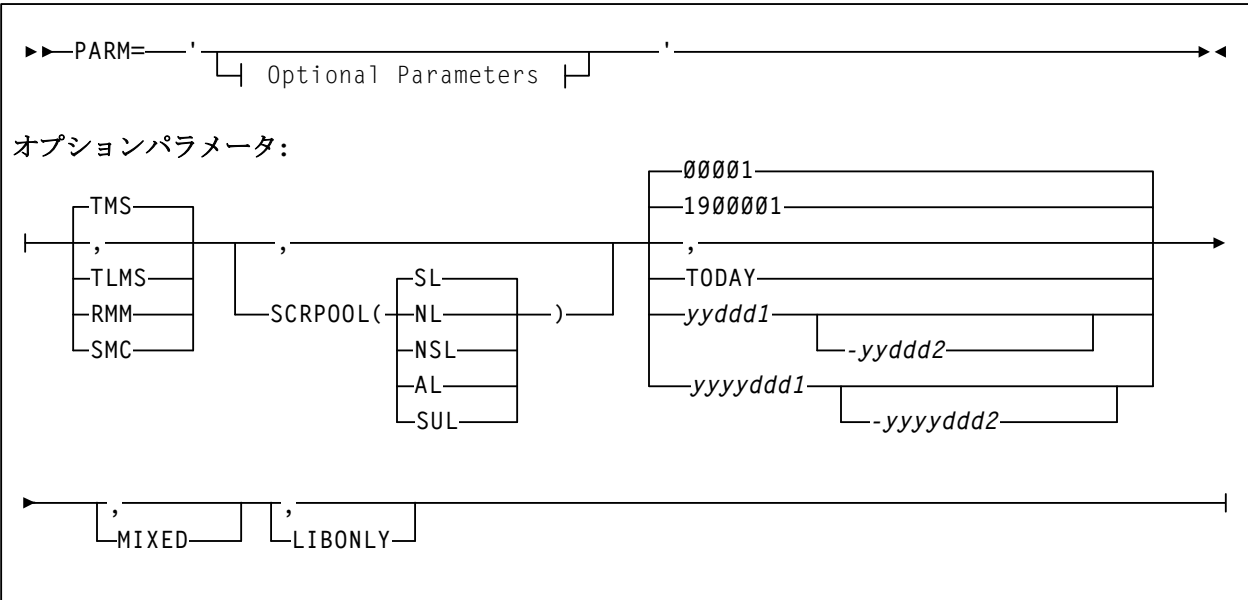
# RESTore ユーティリティー



# SCRAtch ユーティリティー

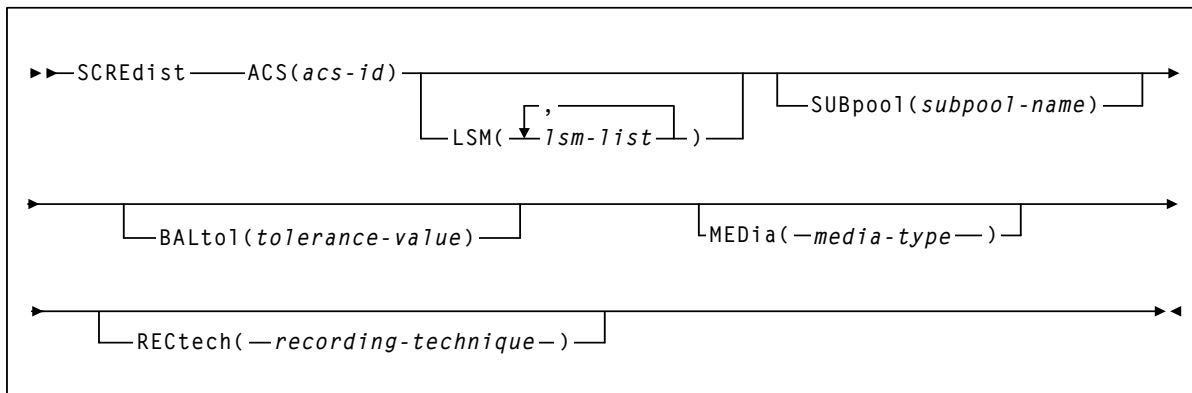


# SLUCONDB ユーティリティー





## スクラッチ再分配 (SCREdist) ユーティリティー



メディアタイプ	記録方式
LONGItud、標準	LONGItud、18track、36track、 36Atrack、36Btrack、36Ctrack
ECART	
ZCART	
DD3、DD3A、DD3B、DD3C	HELical、DD3
STK1、STK1R	STK1R、STK1R34、STK1R35、 STK1RA、STK1RA34、STK1RA35、 STK1RB、STK1RB34、STK1RB35、 STK1RAB、STK1RAB4、STK1RAB5、 STK1RC、STK1RC34、STK1RC35、 STK1RD、STK1RDE、STK1RDN、 STK1RD34、STK1RD35、STK1RDE4、 STK1RDE5
STK2、STK2P	STK2P、STK2P34、STK2P35、 STK2PA、STK2PA34、STK2PA35、 STK2PB、STK2PB34、STK2PB35
LTO-10G、LTO-35G、LTO-50G、 LTO-100G、LTO-200G、LTO-400G、 LTO-400W、LTO-800G、LTO-800W、 LTO-1.5T、LTO-1.5W	*
SDLT、SDLT-2、SDLT-S1、SDLT-S2、 SDLT-S3、SDLT-S4、SDLT-4	*

メディアタイプ	記録方式
T10000T1、T10000TS、T10000T2、 T10000TT	T10K、T10KN、T10KE、T10KA、 T10KAN、T1A34、T1A35、T10KAE、 T1AE34、T1AE35、T10KB、T10KBN、 T1B34、T1B35、T10KBE、T1BE34、 T1BE35、T10KC、T10KCE、 T10KCN、T1C34、T1C35、T1CE34、 T1CE35

\* 対応する記録方式がありません。

## SET ユーティリティー

▶▶SET| Options |◀◀

オプション:

|ACSDRV(*esoteric*)|,FORACS(*acs-id*)|  
|,FORHOST(*host-id*)|

|CLNPRFX(*prefix*)|

|COMPRFX(*cmdhex*)|

|DELDISP(|SCRTCH|)|  
|NOSCRTCH|

|DRVHOST(|OFF|)|  
|*host-id*|

|EJCTPAS(|)|  
|*newpswd*|,OLDPASS(*oldpswd*)|

|FREEZE(|ON|)|,FORLSMID(*lsm-id*)|  
|OFF|,FORPANEL(*panel*)|

|HOSTID(*newhost*),FORHOST(*oldhost*)|

|HSCLEVEL(OFF),FORHOST(*host-id*)|

|MAJNAME(*qname*)|

|NEWHOST(*newhost*),LIKEHOST(*model-host*)|

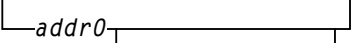
|NNLBDRV(|)|  
|*esoteric*|,FORHOST(*host-id*)|

|SCRLABL(|SL|)|  
|AL|  
|NL|  
|NSL|

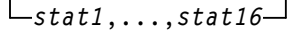
## SET ユーティリティ ( 続き )

▶▶ SET — Options —▶▶

オプション:

└─ SLIDRIVS( —  — ), FORLSMID( *lsm-id* ), FORPANEL( *panel* ) —▶▶  
└─ *addr0* —  
└─ *, ... addr31* —

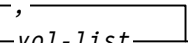
▶▶ —▶▶  
└─ *, FORHOST( host-id )* —

└─ SLISTATN( —  — ), FORACS( *acs-id* ) —▶▶  
└─ *stat1, ..., stat16* —  
└─ *, FORHOST( host-id )* —

└─ SMF( *libtype* ) —▶▶

└─ TCHNIQ( —  — ) —▶▶  
└─ NONE —  
└─ JOURNAL —  
└─ SHADOW —  
└─ BOTH —  
└─ STANDBY —  
└─ ALL —

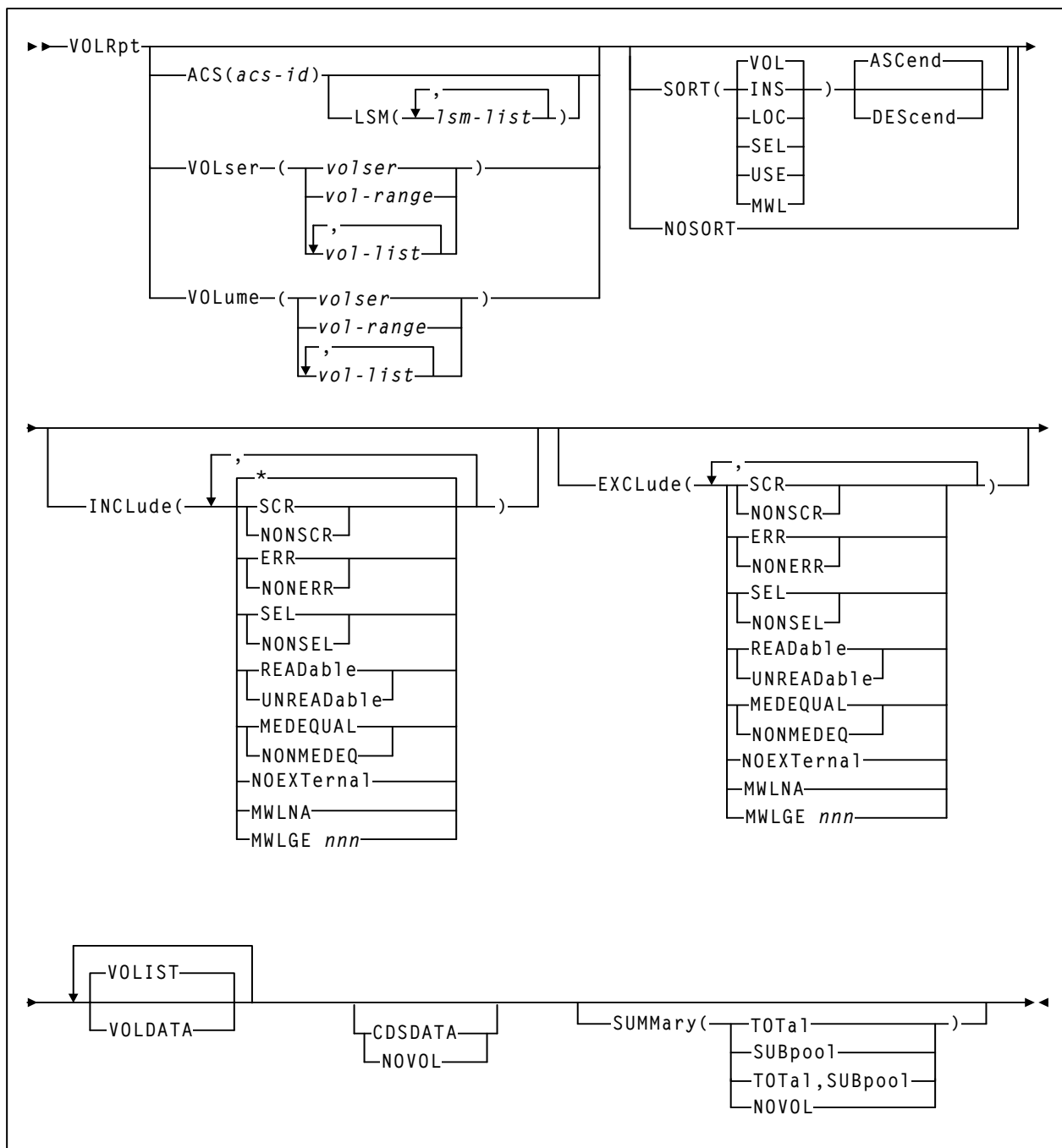
## UNSCratch ユーティリティ

▶▶ UNSCratch — VOLser( —  — ) —▶▶  
└─ *vol-list* —

## UNSElect ユーティリティ

▶▶ UNSElect — VOLser( *volser* ) —▶▶  
└─ *, FORCE* —

## ボリュームレポート (VOLRpt) ユーティリティー

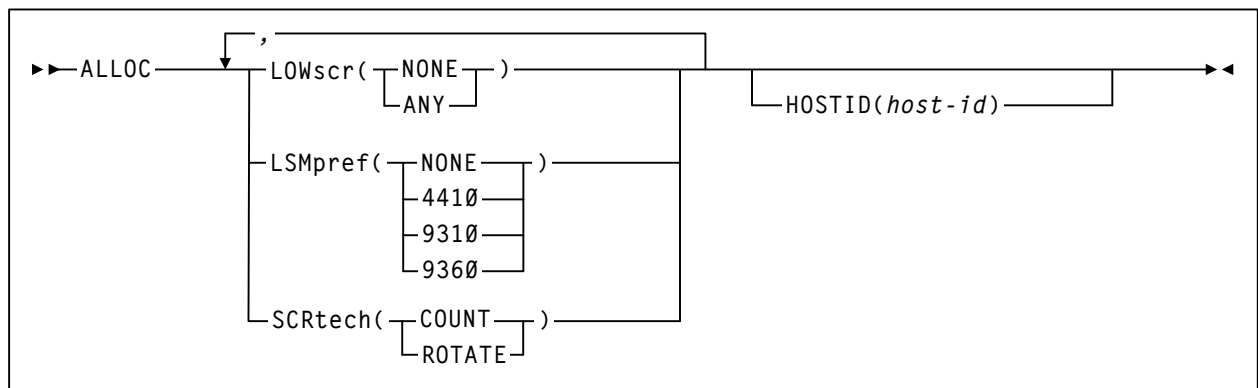




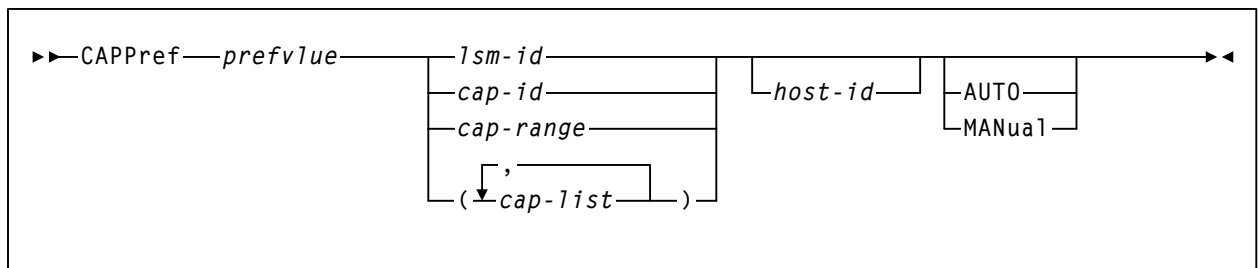
## HSC オペレータコマンドの構文

この項には、オペレータコマンドの構文が記載されています。コマンドについての詳細は、『HSC/MSP オペレータガイド』を参照してください。

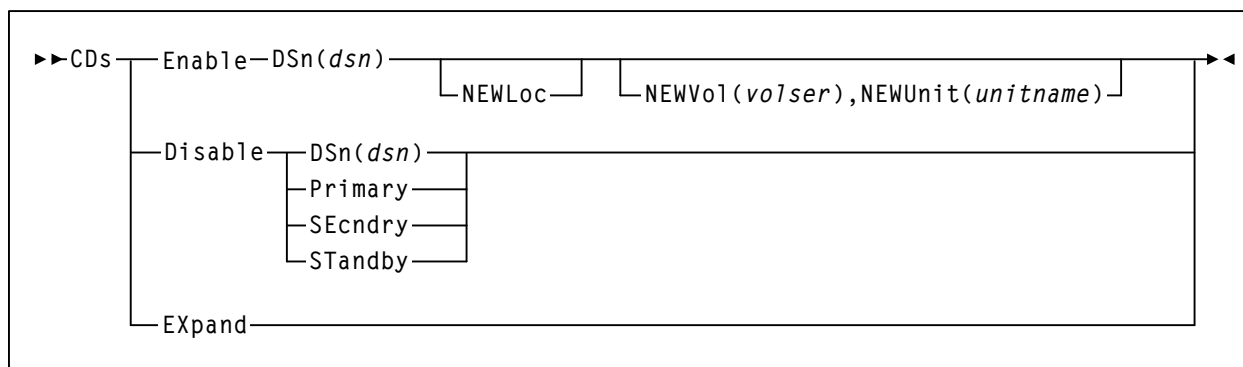
### 割り振り (ALLOC) コマンドと制御文



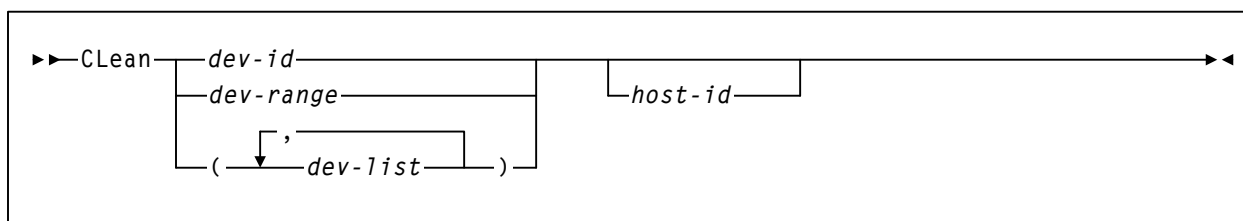
### CAP 優先 (CAPPref) コマンドおよび制御文



## CDs Enable/Disable コマンド

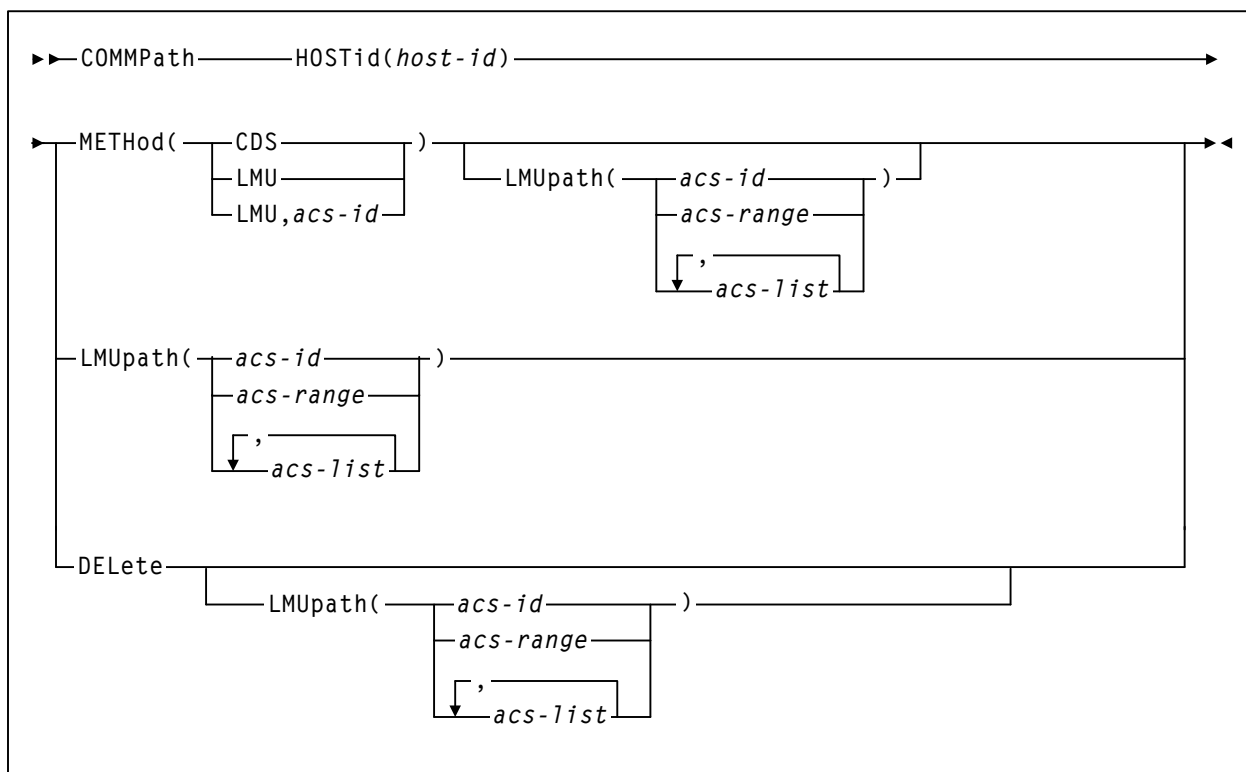


## CLean コマンド

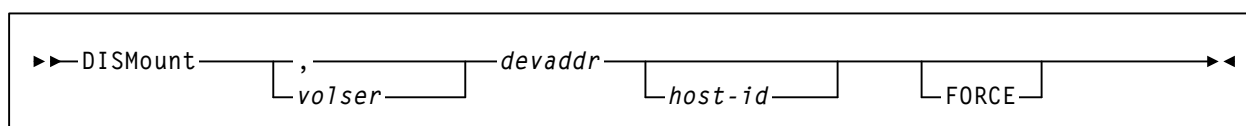




## 通信パス（COMMPath）コマンドおよび制御文

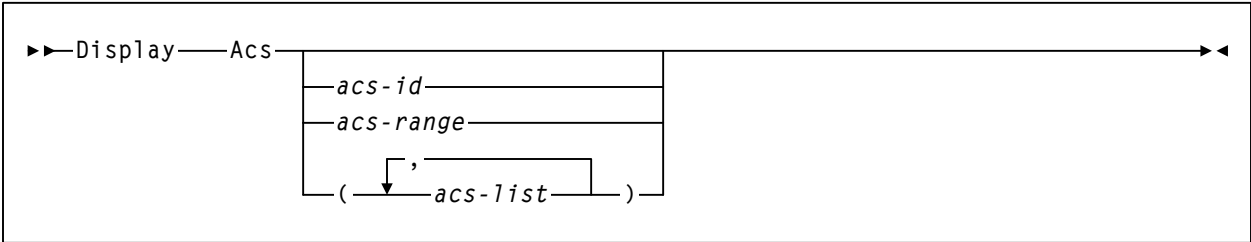


## DISMount コマンド

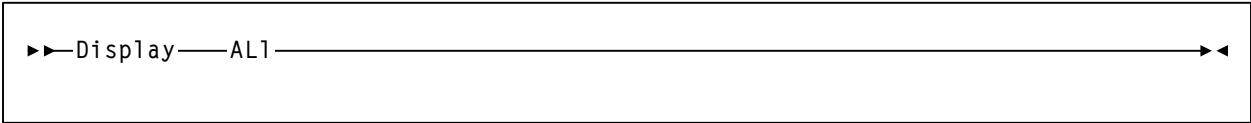


# DISPLAY コマンド

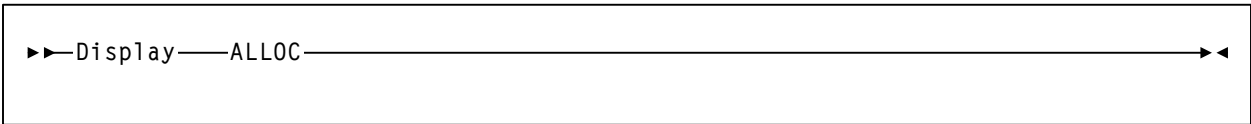
## Display Acs



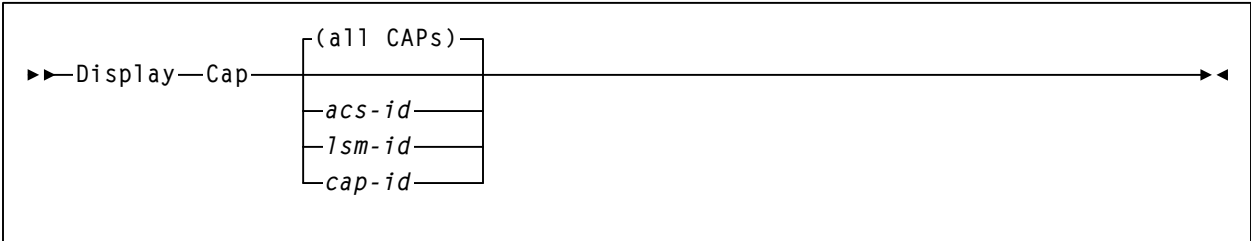
## Display ALI



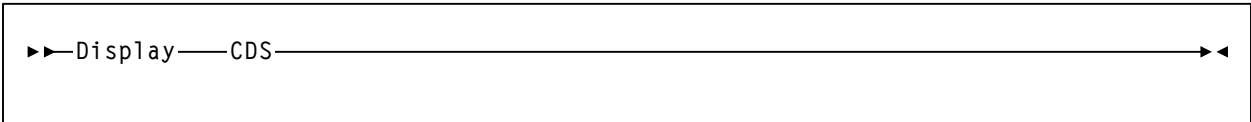
## Display ALLOC



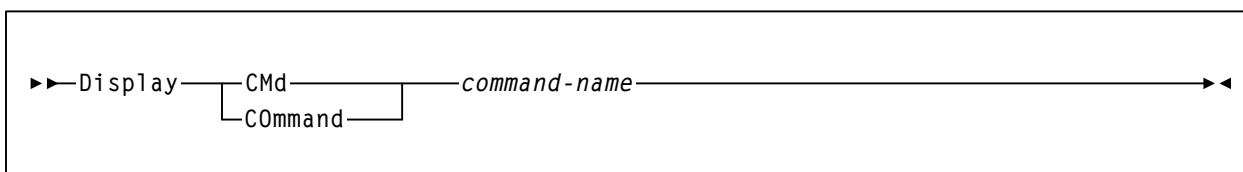
## Display Cap



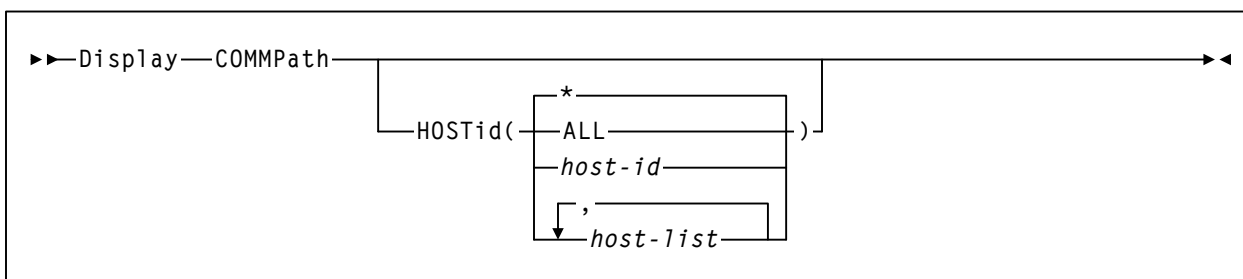
## Display CDS



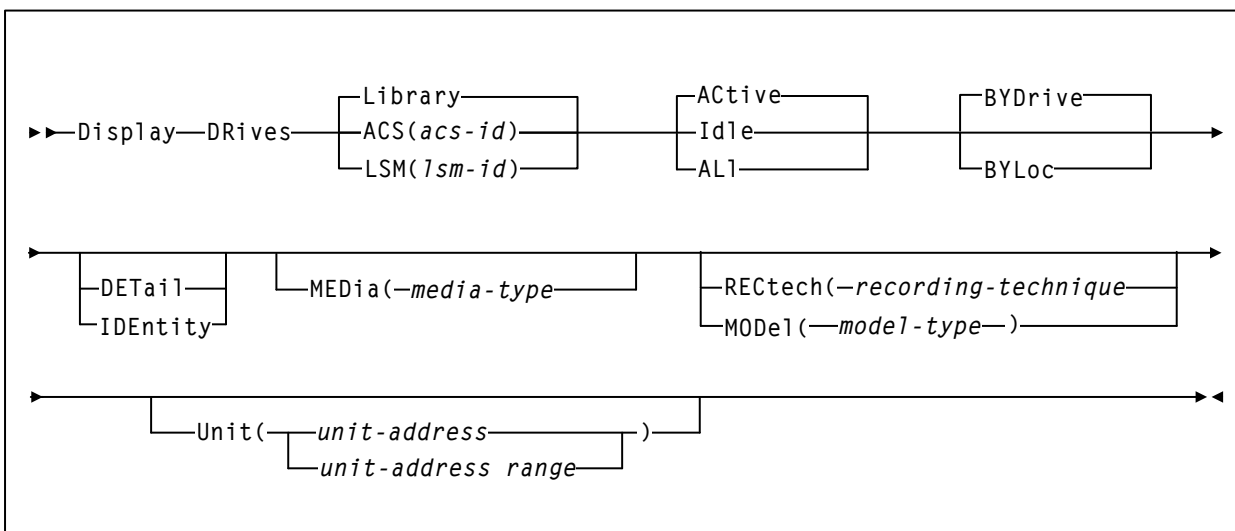
## Display CMd



## Display COMMPath



## Display DRives

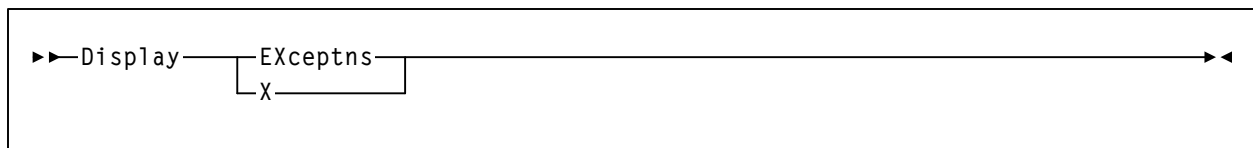


メディアタイプ	記録方式	モデルタイプ
LONGItud	LONGItud、18track、36track、36Atrack、36Btrack、36Ctrack	4480、4490、9490、9490EE
Standard		
ECART		
ZCART		
DD3、DD3A、DD3B、DD3C、DD3D	HELical、DD3	SD3
STK1、STK1R、STK1U、STK1Y	STK1R、STK1R34、STK1R35、STK1RA、STK1RA34、STK1RA35、STK1RB、STK1RB34、STK1RB35、STK1RAB、STK1RAB4、STK1RAB5、STK1RC、STK1RC34、STK1RC35、STK1RD、STK1RDE、STK1RDN、STK1RD34、STK1RD35、STK1RDE4、STK1RDE5	9840、984035、T9840B、T984035B、T9840C、T9840C35、T9840D、T9840D35、T9840DE、T9840DE5
STK2、STK2P、STK2W	STK2P、STK2P34、STK2P35、STK2PA、STK2PA34、STK2PA35、STK2PB、STK2PB34、STK2PB35	T9940A、T9940A35、T9940B、T9940B35
LTO-10G、LTO-35G、LTO-50G、LTO-100G、LTO-200G、LTO-400G、LTO-400W、LTO-800G、LTO-800W、LTO-1.5T、LTO-1.5W、LTO-CLN1、LTO-CLN2、LTO-CLNU	*	HP-LTO2、HP-LTO3、HP-LTO4、HP-LTO5、IBM-LTO2、IBM-LTO3、IBM-LTO4、IBM-LTO5
SDLT、SDLT-2、SDLT-S1、SDLT-S2、SDLT-S3、SDLT-S4、SDLT-4	*	SDLT-600、DLT-S4

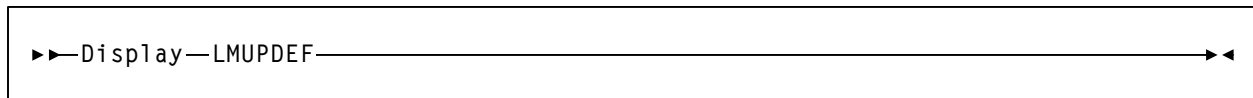
メディアタイプ	記録方式	モデルタイプ
T10000T1、T10000TS、 T10000T2、T10000TT、 T10000CT、T10000CL	T10K、T10KN、T10KE、 T10KA、T10KAN、T1A34、 T1A35、T10KAE、T1AE34、 T1AE35、T10KB、T10KBN、 T1B34、T1B35、T10KBE、 T1BE34、T1BE35、T10KC、 T10KCE、T10KCN、T1C34、 T1C35、T1CE34、T1CE35	T1A34、T1A35、T1AE34、 T1AE35、T1B34、T1B35、 T1BE34、T1BE35、T1C34、 T1C35、T1CE34、T1CE35

\* 対応する記録方式がありません。

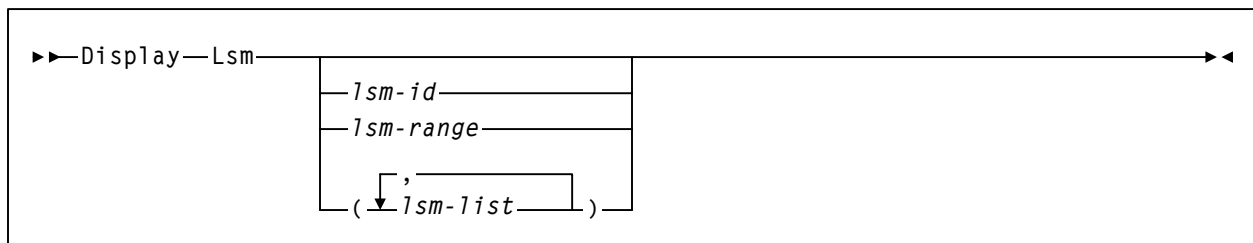
## Display Exceptions



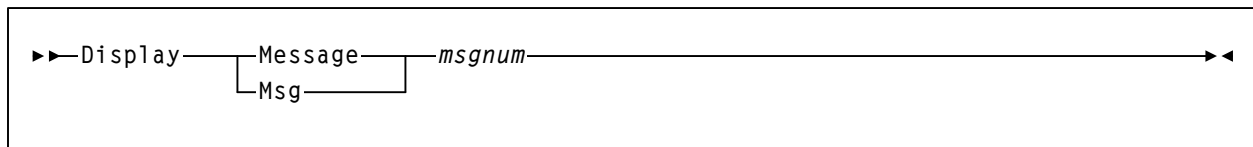
## Display LMUPDEF



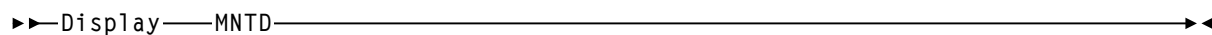
## Display LSM



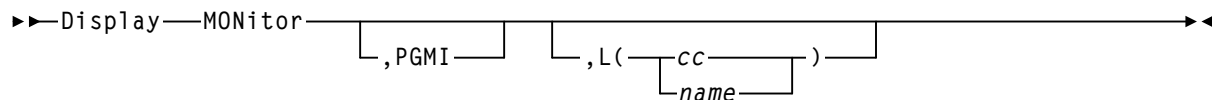
## Display Message



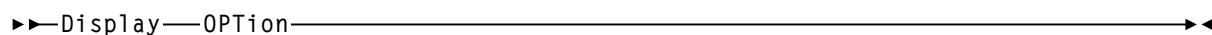
## Display MNTD



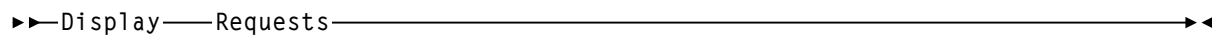
## Display MONitor



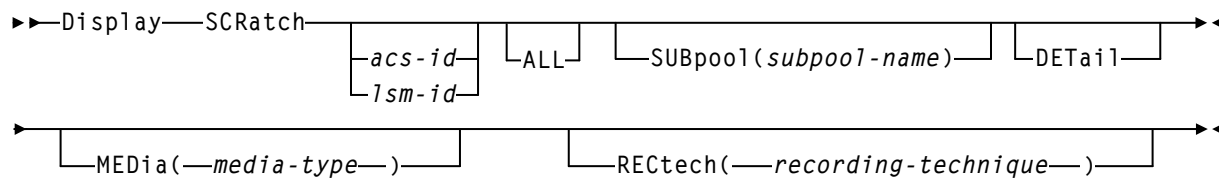
## Display OPTion



## Display Requests



## Display SCRatch



メディアタイプ	記録方式
LONGItud	LONGItud、18track、36track、 36Atrack、36Btrack、36Ctrack
Standard	
ECART	
ZCART	
DD3、DD3A、DD3B、DD3C	HELical、DD3
STK1、STK1R	STK1R、STK1R34、STK1R35、 STK1RA、STK1RA34、STK1RA35、 STK1RB、STK1RB34、STK1RB35、 STK1RAB、STK1RAB4、STK1RAB5、 STK1RC、STK1RC34、STK1RC35、 STK1RD、STK1RDE、STK1RDN、 STK1RD34、STK1RD35、STK1RDE4、 STK1RDE5
STK2、STK2P	STK2P、STK2P34、STK2P35、 STK2PA、STK2PA34、STK2PA35、 STK2PB、STK2PB34、STK2PB35
LTO-10G、LTO-35G、LTO-50G、 LTO-100G、LTO-200G、LTO-400G、 LTO-400W、LTO-800G、LTO-800W、 LTO-1.5T、LTO-1.5W	*
SDLT、SDLT-2、SDLT-S1、SDLT-S2、 SDLT-S3、SDLT-S4、SDLT-4	*
T10000T1、T10000TS、T10000T2、 T10000TT	T10K、T10KN、T10KE、T10KA、 T10KAN、T1A34、T1A35、T10KAE、 T1AE34、T1AE35、T10KB、T10KBN、 T1B34、T1B35、T10KBE、T1BE34、 T1BE35、T10KC、T10KCE、 T10KCN、T1C34、T1C35、T1CE34、 T1CE35

\* 対応する記録方式がありません。

## Display SCRPDEF

►► Display — SCRPDEF ————— ►◀

## Display SRVlev

►► Display — SRVlev ————— ►◀

## Display Status

►► Display — Status ————— ►◀

## Display THReshId

►► Display — THReshId ————— ►◀

└acs-id┐ └SUBpool(subpool-name)┐ └DETail┐  
└lsm-id┐

└MEDia(—media-type—)┐ └RECtech(—recording-technique—)┐



メディアタイプ	記録方式
LONGItud	LONGItud、18track、36track、 36Atrack、36Btrack、36Ctrack
Standard	
ECART	
ZCART	
DD3、DD3A、DD3B、DD3C	HELical、DD3
STK1、STK1R	STK1R、STK1R34、STK1R35、 STK1RA、STK1RA34、STK1RA35、 STK1RB、STK1RB34、STK1RB35、 STK1RAB、STK1RAB4、STK1RAB5、 STK1RC、STK1RC34、STK1RC35、 STK1RD、STK1RDE、STK1RDN、 STK1RD34、STK1RD35、STK1RDE4、 STK1RDE5
STK2、STK2P	STK2P、STK2P34、STK2P35、 STK2PA、STK2PA34、STK2PA35、 STK2PB、STK2PB34、STK2PB35
LTO-10G、LTO-35G、LTO-50G、 LTO-100G、LTO-200G、LTO-400G、 LTO-400W、LTO-800G、LTO-800W、 LTO-1.5T、LTO-1.5W	*
SDLT、SDLT-2、SDLT-S1、SDLT-S2、 SDLT-S3、SDLT-S4、SDLT-4	*
T10000T1、T10000TS、T10000T2、 T10000TT	T10K、T10KN、T10KE、T10KA、 T10KAN、T1A34、T1A35、T10KAE、 T1AE34、T1AE35、T10KB、T10KBN、 T1B34、T1B35、T10KBE、T1BE34、 T1BE35、T10KC、T10KCE、 T10KCN、T1C34、T1C35、T1CE34、 T1CE35

\* 対応する記録方式がありません。

## Display TREQDEF

▶▶ Display — TREQDEF —————▶◀

## Display UNITDEF

▶▶ Display — UNITDEF —————▶◀

## Display VOLDEF

▶▶ Display — VOLDEF —————▶◀

## Display Volume

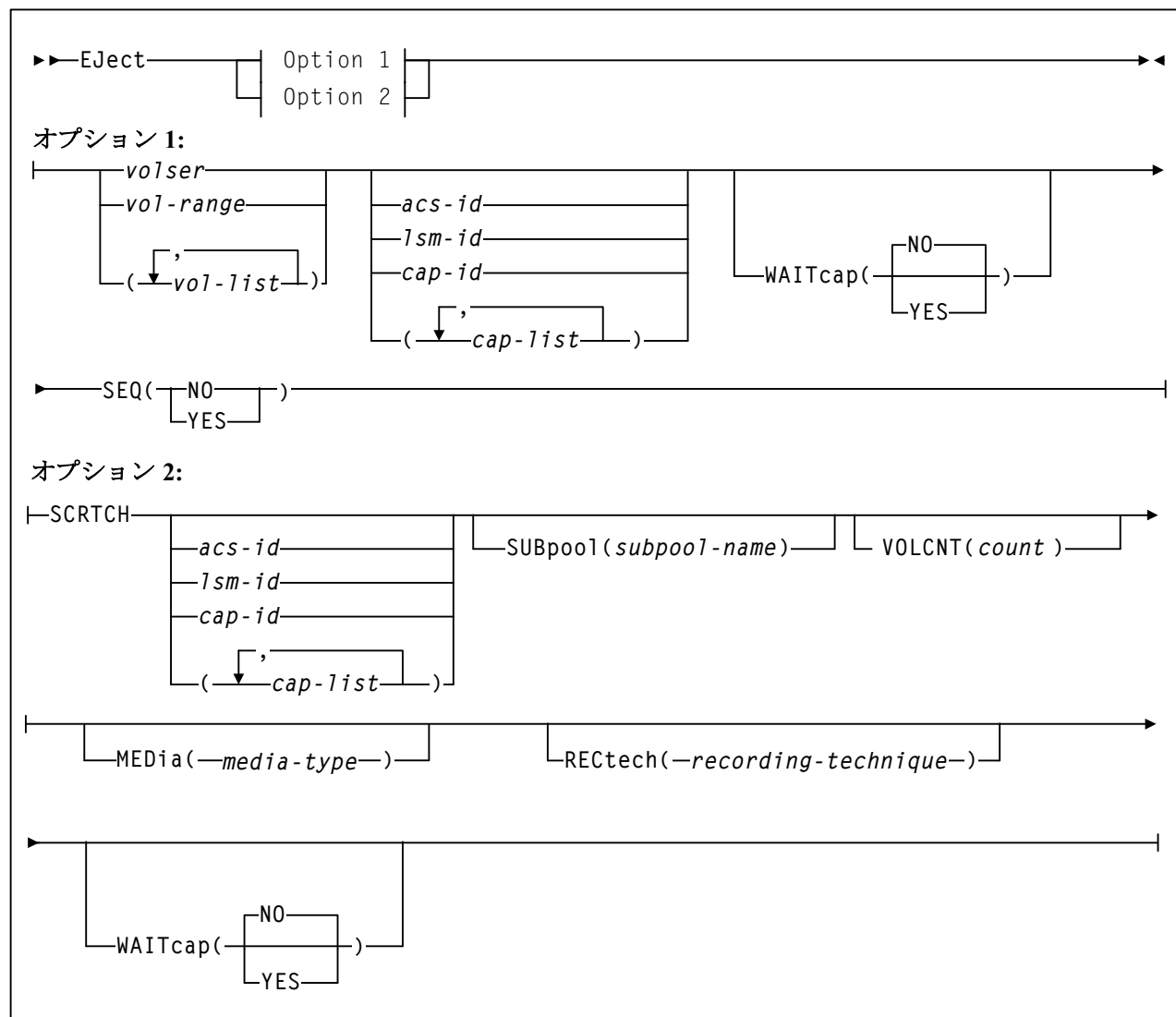
▶▶ Display — Volser —————▶◀  
                  Volume —————▶◀  
                          volser —————▶◀  
                          vol-range —————▶◀  
                                  ↓  
                                  ( — vol-list — )

## DRAIn CAP コマンド

▶▶ DRAIn — cap-id —————▶◀  
                                  ↓  
                                  ( — cap-list — )

Enter —————▶◀  
Eject —————▶◀

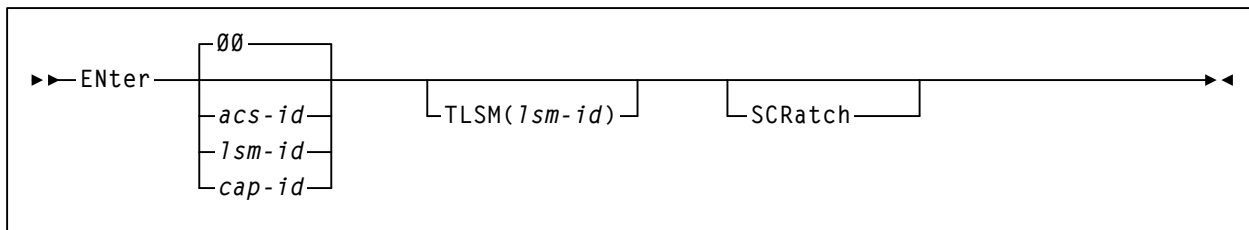
## Eject コマンド



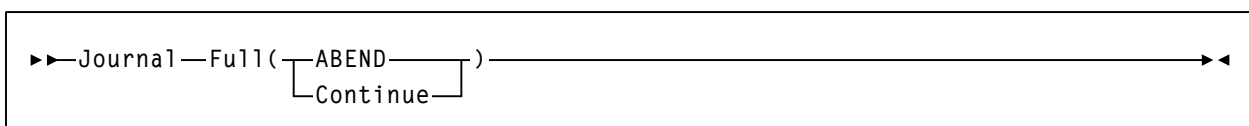
メディアタイプ	記録方式
LONGItud	LONGItud、18track、36track、36Atrack、36Btrack、36Ctrack
Standard	
ECART	
ZCART	
DD3、DD3A、DD3B、DD3C	HELical、DD3
STK1、STK1R	STK1R、STK1R34、STK1R35、STK1RA、STK1RA34、STK1RA35、STK1RB、STK1RB34、STK1RB35、STK1RAB、STK1RAB4、STK1RAB5、STK1RC、STK1RC34、STK1RC35、STK1RD、STK1RDE、STK1RDN、STK1RD34、STK1RD35、STK1RDE4、STK1RDE5
STK2、STK2P	STK2P、STK2P34、STK2P35、STK2PA、STK2PA34、STK2PA35、STK2PB、STK2PB34、STK2PB35
LTO-10G、LTO-35G、LTO-50G、LTO-100G、LTO-200G、LTO-400G、LTO-400W、LTO-800G、LTO-800W、LTO-1.5T、LTO-1.5W	*
SDLT、SDLT-2、SDLT-S1、SDLT-S2、SDLT-S3、SDLT-S4、SDLT-4	*
T10000T1、T10000TS、T10000T2、T10000TT	T10K、T10KN、T10KE、T10KA、T10KAN、T1A34、T1A35、T10KAE、T1AE34、T1AE35、T10KB、T10KBN、T1B34、T1B35、T10KBE、T1BE34、T1BE35、T10KC、T10KCE、T10KCN、T1C34、T1C35、T1CE34、T1CE35

\* 対応する記録方式がありません。

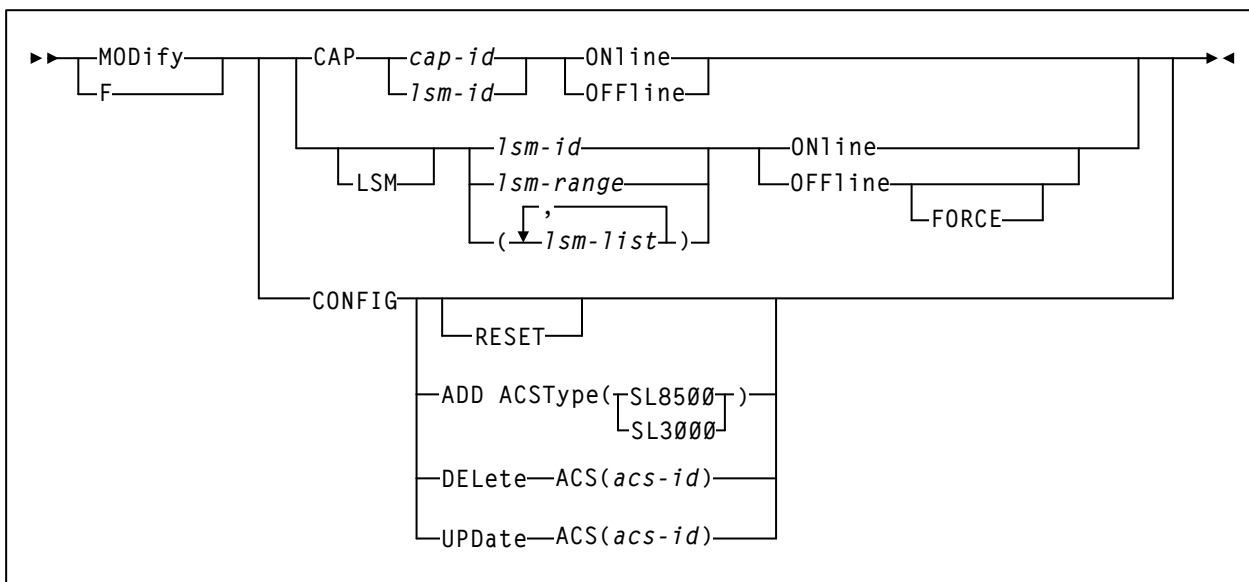
## ENter コマンド



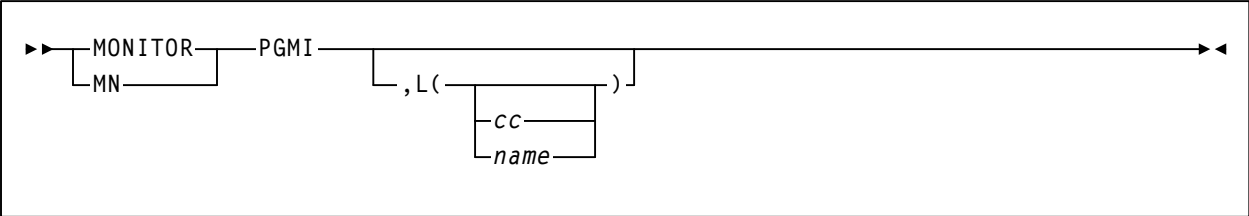
## Journal コマンド



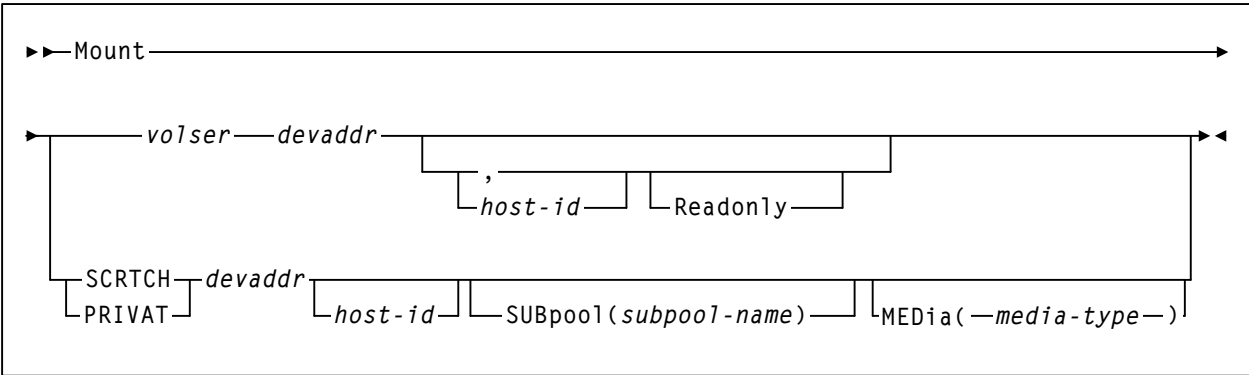
## MODify コマンド



# MONITOR コマンド

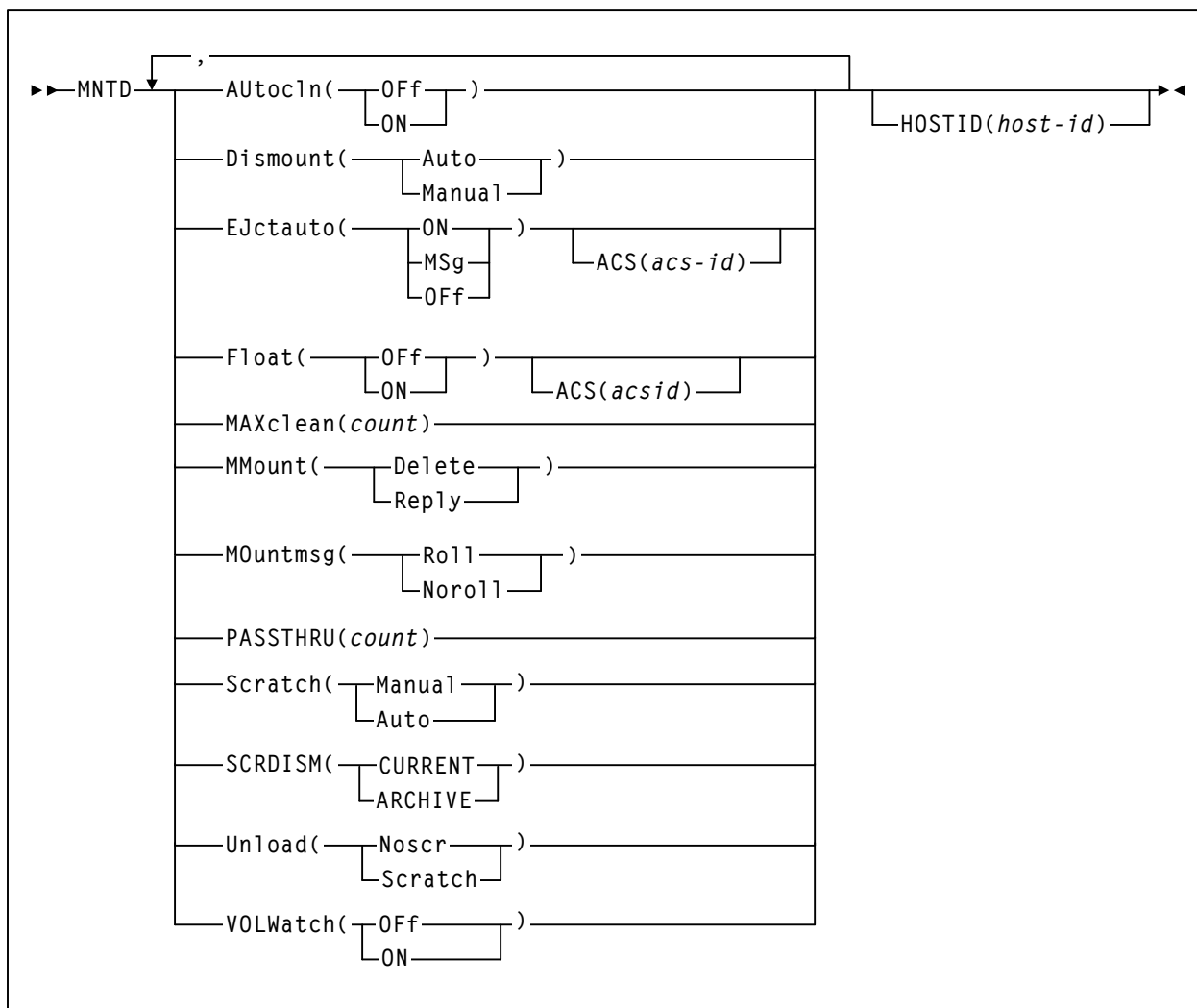


# Mount コマンド

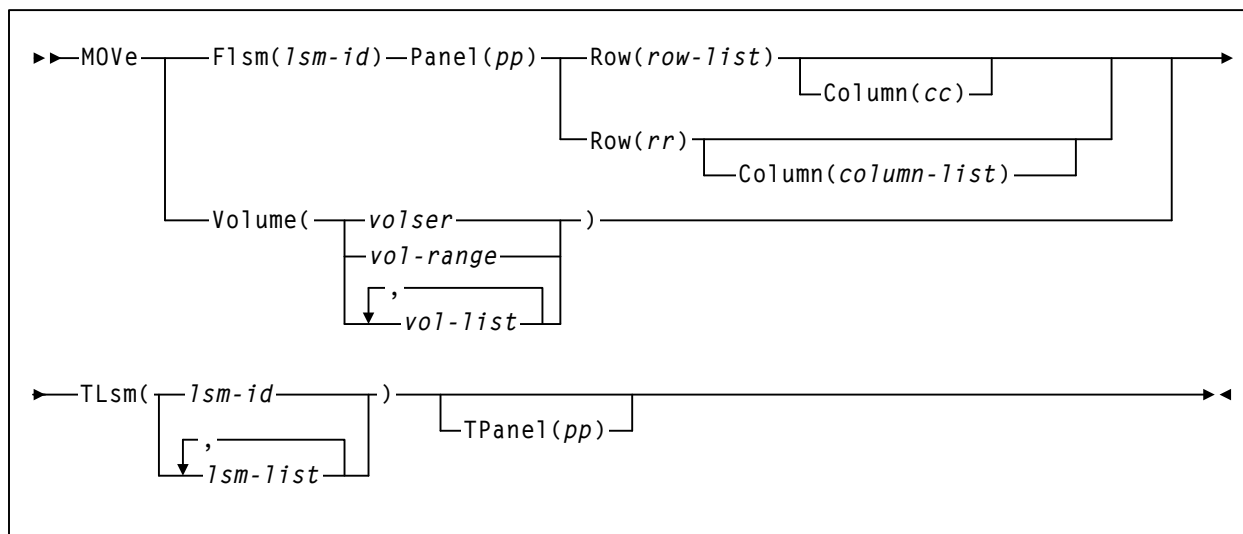


メディアタイプ
LONGitud
Standard
ECART
ZCART
DD3、DD3A、DD3B、DD3C
STK1、STK1R
STK2、STK2P
LTO-10G、LTO-35G、LTO-50G、LTO-100G、LTO-200G、LTO-400G、LTO-400W、LTO-800G、LTO-800W、LTO-1.5T、LTO-1.5W
SDLT、SDLT-2、SDLT-S1、SDLT-S2、SDLT-S3、SDLT-S4、SDLT-4
T10000T1、T10000TS、T10000T2、T10000TT

## MNTD (Mount/Dismount Options) コマンドと制御文

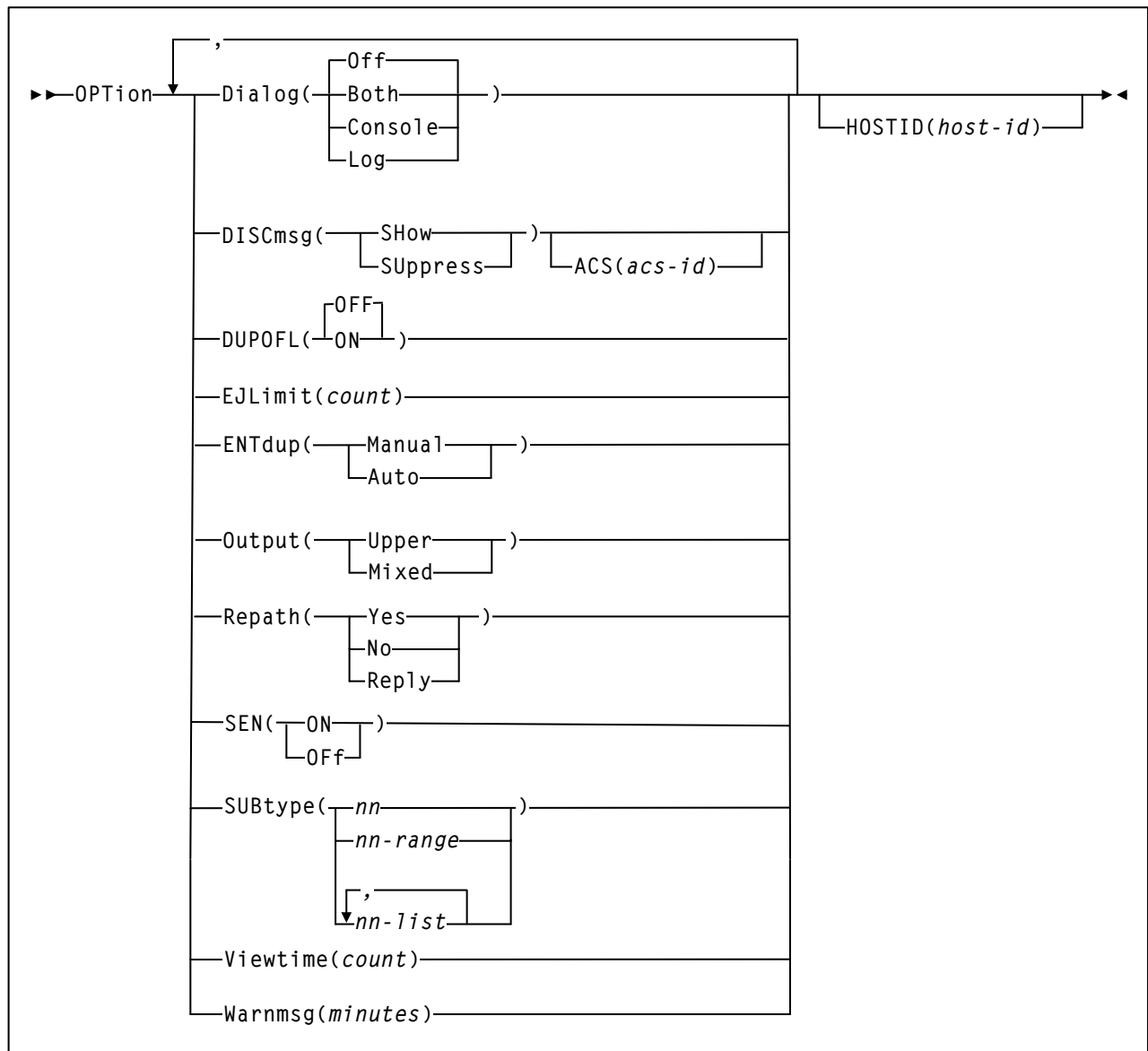


## MOVE コマンド

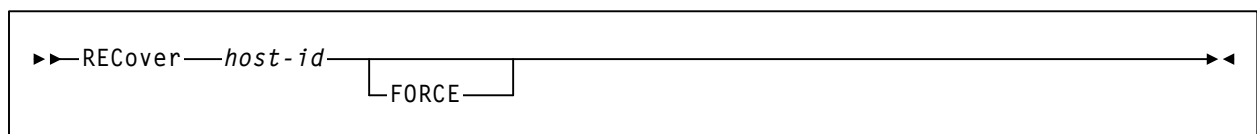




## OPTion コマンドと制御文



## RECover Host コマンド



## RELease CAP コマンド

▶▶ RELease — *cap-id* —————▶▶

## SCRAtch コマンド

▶▶ SCRAtch — VOLser( — *vol-list* — ) —————▶▶

## SEnTer コマンド

▶▶ SEnTer ————— *cap-id* —————▶▶

## SRVlev コマンド

▶▶ SRVlev ———— BASE —————▶▶  
                  FULL ————

## 監視停止 (STOPMN) コマンド

▶▶ STOPMN ———— PGMI —————▶▶  
      PM ————  
                  , L( ———— ) —————▶▶  
                      cc ————  
                      name ————

## SWitch コマンド

▶▶ Switch — Acs *acs-id*<sup>(1)</sup> — LIBrary *lib-id* —▶▶

注:

(1) ACS *acs-id* は、単一 ACS 環境では省略可能であり、複数 ACS 環境では必須です。

## TRace コマンド

▶▶ TRace — *comp-name* —▶▶  
└─ *comp-list* —▶▶  
└─ OFF — *comp-name* —▶▶  
          └─ *comp-list* —▶▶

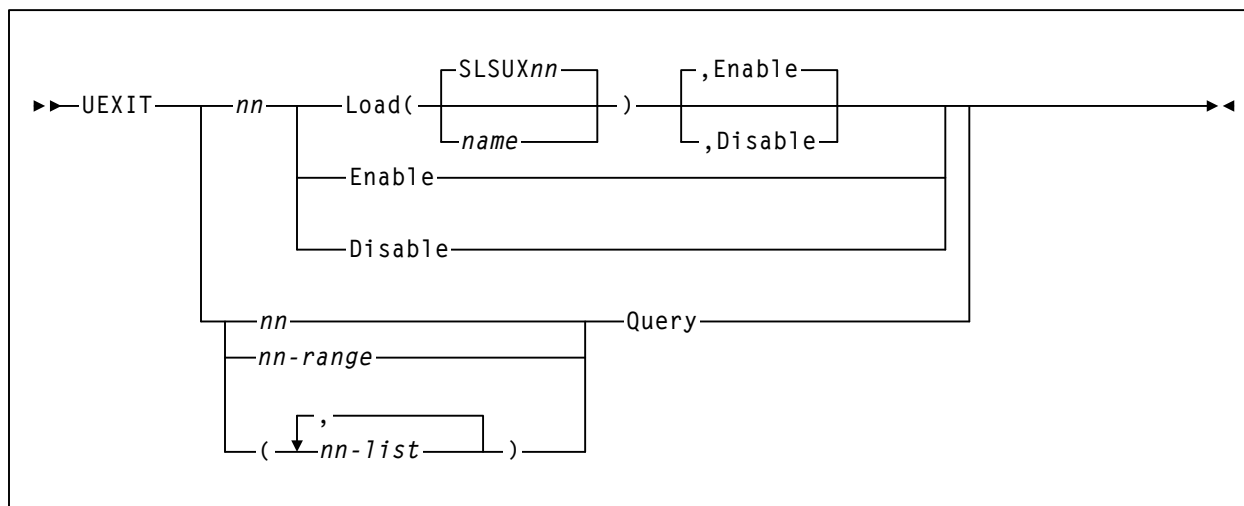
## TRACELKP コマンド

▶▶ TRACELKP — *table-name* —▶▶  
└─ *table-list* —▶▶  
└─ OFF — *table-name* —▶▶

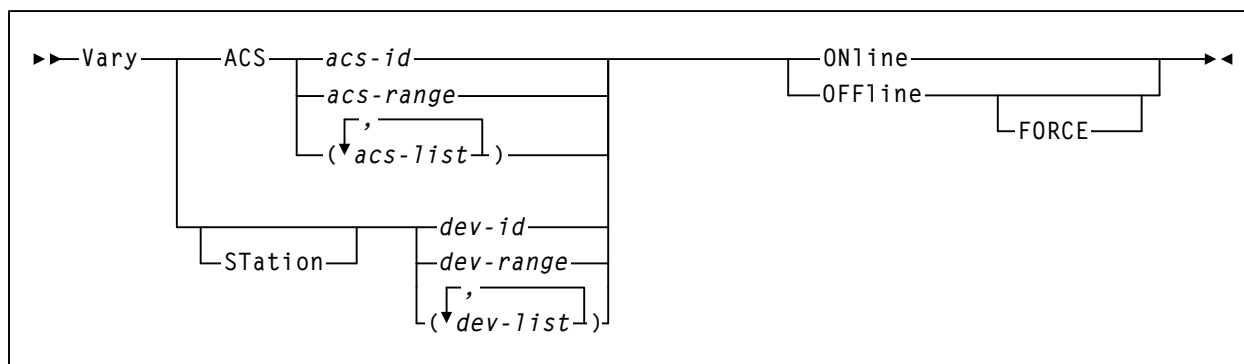
## UNSCRatch コマンド

▶▶ UNSCratch — VOLser( *vol-list* ) —▶▶

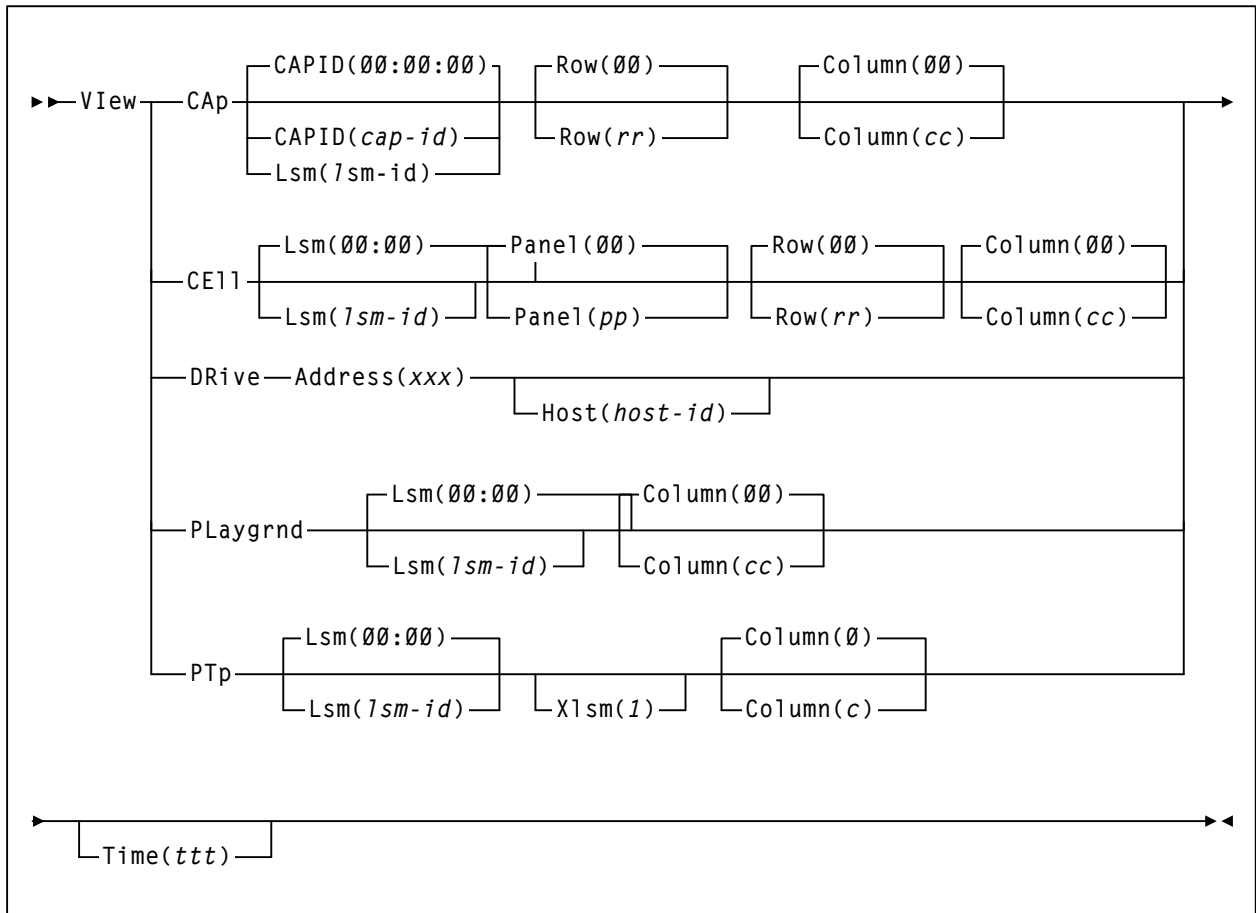
## ユーザー出口 (UEXIT) コマンドおよび制御文



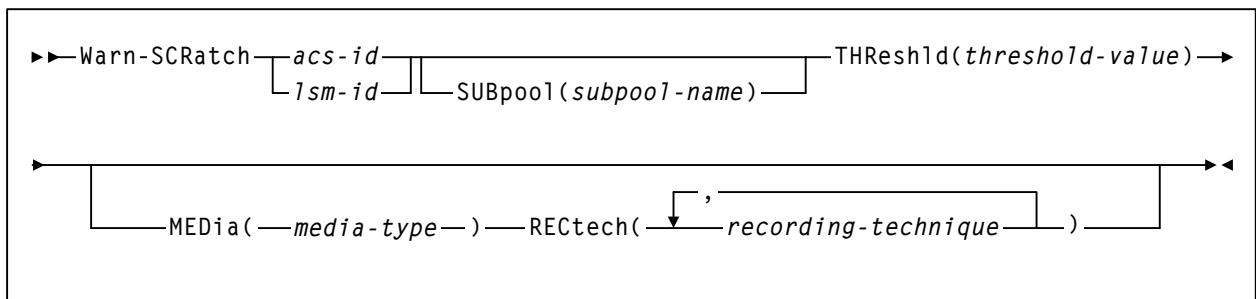
## Vary Station コマンド



## View コマンド



## Warn コマンド



メディアタイプ	記録方式
LONGItud	LONGItud、18track、36track、36Atrack、36Btrack、36Ctrack
Standard	
ECART	
ZCART	
DD3、DD3A、DD3B、DD3C	HELical、DD3
STK1、STK1R	STK1R、STK1R34、STK1R35、STK1RA、STK1RA34、STK1RA35、STK1RB、STK1RB34、STK1RB35、STK1RAB、STK1RAB4、STK1RAB5、STK1RC、STK1RC34、STK1RC35、STK1RD、STK1RDE、STK1RDN、STK1RD34、STK1RD35、STK1RDE4、STK1RDE5
STK2、STK2P	STK2P、STK2P34、STK2P35、STK2PA、STK2PA34、STK2PA35、STK2PB、STK2PB34、STK2PB35
LTO-10G、LTO-35G、LTO-50G、LTO-100G、LTO-200G、LTO-400G、LTO-400W、LTO-800G、LTO-800W、LTO-1.5T、LTO-1.5W	*
SDLT、SDLT-2、SDLT-S1、SDLT-S2、SDLT-S3、SDLT-S4、SDLT-4	*
T10000T1、T10000TS、T10000T2、T10000TT	T10K、T10KN、T10KE、T10KA、T10KAN、T1A34、T1A35、T10KAE、T1AE34、T1AE35、T10KB、T10KBN、T1B34、T1B35、T10KBE、T1BE34、T1BE35、T10KC、T10KCE、T10KCN、T1C34、T1C35、T1CE34、T1CE35

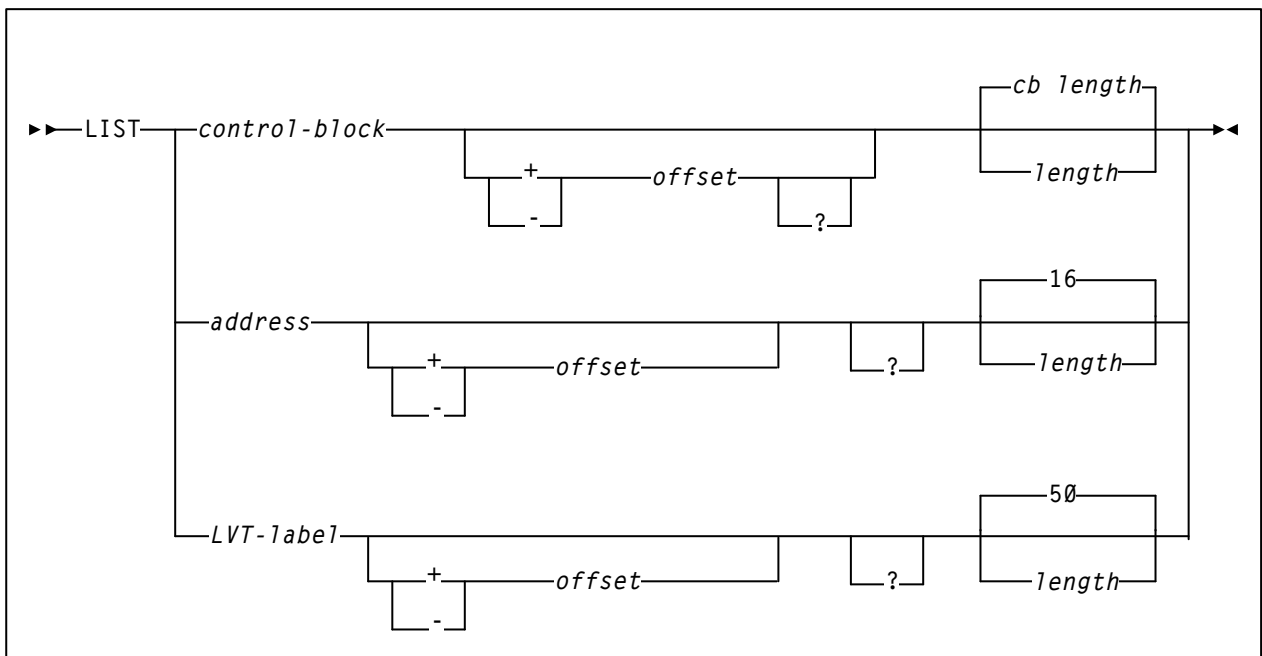
\* 対応する記録方式がありません。

## HSC 診断コマンドの構文

---

この項には、診断コマンドの構文が記載されています。コマンドについての詳細は、『HSC システムプログラマーズガイド(MSP 対応版)』および『HSC/MSP オペレータガイド』を参照してください。

### List コマンド



## TRace コマンド

